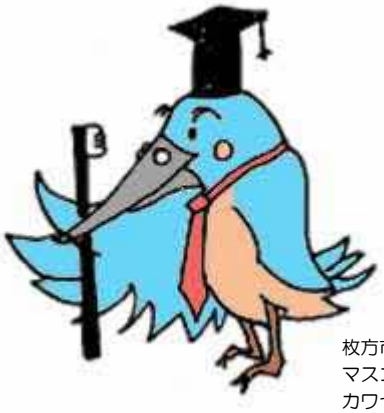
資料５―２

枚方市歯科口腔保健計画

最終評価報告書（素案）



枚方市健康増進計画
マスコットキャラクター
カワセミ教授

令和５年〇月

枚方市

枚方市歯科口腔保健計画最終評価報告書（素案）

目　次

第１章　枚方市歯科口腔保健計画の概要

１．　基本目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
２．　基本目標実現のための取組の方向性・重点的対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
３．　計画期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
４．　中間評価の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
５．　計画期間内に再設定した目標項目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６

第２章　最終評価について

１．　最終評価の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
２．　最終評価の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
（１）最終評価の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
（２）最終評価の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
３．　最終評価のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
（１）目標達成状況別まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
（２）ライフステージ別に見た達成状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
４．　目標達成状況の詳細・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３

第３章　最終評価からみえてきた課題と今後の取組

１．　計画期間における社会環境の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６
（１）社会の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３６
（２）国の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３７
２．　本計画の総合評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３８
（１）「歯科口腔保健推進の方向性を踏まえた目標」に対する評価 ・・・・・・・・・３８
（２）「重点的歯科口腔保健対策／ライフステージ別の課題と取組」に対する評価 ・３８
（３）「重点的歯科口腔保健対策／配慮を要する者の課題と取組」に対する評価 ・・３９
（４）「状況に応じた歯科口腔保健医療」に関する評価 ・・・・・・・・・・・・・・３９
（５）「歯科口腔保健推進体制」に関する評価 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・４０
（６）全体評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４１
３．　今後の取組の方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４１

【資料編】

- 令和４年度 枚方市民の生活習慣や歯と口の健康に関するアンケート結果報告書
- 令和４年度 小学生・中学生・高校生の生活習慣や歯と口の健康に関する調査・結果報告書
- 学校歯科保健アンケート結果報告書
- 令和４年度枚方市内の障害者（児）施設における歯と口腔の健康に関するアンケート結果報告書
- 令和４年度枚方市内の介護老人福祉施設及び介護老人保健施設における歯と口腔の健康に関するアンケート結果報告書

第１章　枚方市歯科口腔保健計画の概要

本市では、すべての市民が健康で安心していきいきと暮らすことができるまちの実現を目指し、平成26 年３月に「第２次枚方市健康増進計画」を策定しました。さらに、歯と口腔の健康づくりを通じて生涯自分の歯で食べて味わい、元気でいきいきとした人生を送ることができるよう、平成 28 年３月に「枚方市歯科口腔保健計画」を策定しました。平成 28 年４月には、歯科口腔保健に関する知識の普及等の施策を実施するための行政機能組織として、「口腔保健支援センター」を設置し、市民の歯と口腔の健康づくりの推進に取り組んでいます。

１．基本目標

「食べる」「味わう」「話す」等の口腔機能は、生活の質に大きく影響し、特に、高齢者における口腔機能の低下は、健康寿命の短縮や生命予後の悪化につながる要因のひとつとなります。

乳幼児期（胎児期を含む）から高齢期まで継続して、口腔機能の育成・維持向上に向けて取り組むことにより健康寿命の延伸が期待されることから、**「市民の生涯にわたる健康寿命の延伸」**を基本目標としています。

２．基本目標実現のための取組の方向性・重点的対策

枚方市の現状と課題から取組の方向性を設定し、生涯にわたる対策や状況に応じた対策について重点的に取組を定めて推進します。そして、基本目標を実現するための取組の方向性・重点的対策を包含した理念である 8020（ハチマルニイマル）運動を推進し、健康寿命の延伸を目指します。

３．計画期間

計画期間は、平成 28 年度を始期とし、終期を「第２次枚方市健康増進計画」と合わせて令和５年度までの８年間としています。

計画の評価は、平成 30 年度に中間評価を行うとともに、計画の最終年度に最終評価を行うこととしました。

＜枚方市歯科口腔保健計画の概念図＞

枚方市健康増進計画
マスコットキャラクター
カワセミ教授

＜基本目標＞

市民の生涯にわたる健康寿命の延伸

8020 運動の推進

（一生、自分の歯で食べて味わうために！）

歯科口腔保健推進の方向性

- 歯科口腔保健に関する知識や予防の普及啓発
- 定期的に歯科健康診査を受けること等の勧奨
- 配慮を要する者が定期的に歯科健康診査を受けること等のための施策の実施
- 歯科口腔保健を推進するために必要な社会環境の整備

重点的歯科口腔保健対策

生涯にわたる歯科口腔保健

- う蝕予防・歯周病予防
  口腔機能の維持向上
- ライフステージ別の課題と取組
- 配慮を要する者の課題と取組

状況に応じた歯科口腔保健医療

- 休日急病歯科医療
- 災害時の歯科口腔保健医療

４．中間評価の概要

「枚方市歯科口腔保健計画」は平成 28 年度から令和５年度までの８年間の計画で、平成 30 年度に中間評価を行いました。

本計画では、計 31 項目の目標項目を設定しており、中間評価についてはそれら目標項目の達成状況を中心に評価を行いました。

目標項数 31 項目のうち、A（達成・概ね達成）または B+（改善）、B-（やや改善）が合わせて 18 項目で、全体の 58.0%を占める結果となりました。一方、C（変化なし）は６項目で 19.4%、D（悪化）は７項目で 22.6%でした。

中間評価の結果からは、定期的に歯科健康診査を受診している者や、かかりつけ歯科医を有する者、喫煙と歯周病の関係について知っている者の割合が増加している等、本市における歯と口の健康づくりに対する意識は向上していると考えられる一方、「8020 運動」や「噛ミング 30」といった言葉の認知度は依然として低く、歯磨き剤がフッ素入りかどうかを知らない者も多いことが明らかとなりました。

中間評価の結果を受けて、歯と口の健康づくりに関する正しい知識の啓発活動を中心に、「枚方市歯科口腔保健計画」の最終年度に向けて、優先的に取り組む事項を「最終年度に向けて優先的に取り組むべきこと」のとおり、取りまとめました。

図表 1　中間評価における目標達成度の概要

目標達成度			項目数
A	達成・概ね達成	達成率 90%以上	4(12.9%)
B+	改善	達成率 50%以上 90%未満	5(16.1%)
B-	やや改善	達成率 10%以上 50%未満	9(29.0%)
C	変化なし	達成率－10%以上 10%未満	6(19.4%)
D	悪化	達成率－10%未満	7(22.6%)
合計			31(100%)

最終年度に向けて優先的に取り組むべきこと

- 「8020 運動」「噛ミング 30」という言葉が市民の目に触れる機会を増やす
- う蝕や歯周病を予防するため、小学校に入学後も保護者等による磨き残しのチェックを継続する必要性を啓発する
- 学生や子育て世代・働く世代が歯と口の健康に関心を持てるよう啓発を行う
- かかりつけ歯科医を持ち、専門職による定期的な介入(プロフェッショナルケア)を受けることの必要性について啓発する
- 乳幼児、小中学生、高齢者、妊産婦、障害者(児)、要介護者、有病者に関わる職種へ、歯と口の健康づくりに関する情報提供を実施する

図表 2　中間評価における評価区分別の目標達成状況結果

■ 達成状況の分類あり

達成状況		項目番号	目標項目
A	達成・概ね達成	10	中学生・高校生における歯肉に所見を有する者の減少
		18	50 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の増加（45～54 歳）
		26	障害者（児）入所施設での定期的な歯科健康診査実施率の増加
		28	糖尿病と歯周病の関係について知っている者の割合の増加
B+	改善	5-2	過去 1 年間に歯科健康診査を受診した者の増加（一般）
		7	3 歳児でのう蝕のない者の増加
		16	40 歳で喪失歯のない者の増加（35～44 歳）
		17	喫煙と歯周病の関係について知っている者の増加
		19	60 歳で未処置歯を有する者の減少
B-	やや改善	1-1	【小中高】「8020 運動」という言葉を知っている者の増加
		4-1	【小中高】過去 1 年間に歯科医院で口腔清掃について個別に指導をうけた者の増加
		4-2	【一般】過去 1 年間に歯科医院で口腔清掃について個別に指導をうけた者の増加
		5-1	【小中高】過去 1 年間に歯科健康診査を受診した者の増加
		6-2	【一般】かかりつけ歯科医を有する者の増加
		20	60 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少
		22	80 歳で 20 歯以上の自分の歯を有する者の増加（75～84 歳）
		25	妊産婦歯科健康診査受診率の増加
		27	介護老人福祉施設・介護老人保健施設での定期的な歯科健康診査実施率の増加
C	変化なし	1-2	【一般】「8020 運動」という言葉を知っている者の増加
		2-1	【小中高】「噛ミング 30」という言葉を知っている者の増加
		2-2	【一般】「噛ミング 30」という言葉を知っている者の増加
		3-1	【小中高】フッ素入りの歯磨き剤を使用している者の増加
		3-2	【一般】フッ素入りの歯磨き剤を使用している者の増加
		15	40 歳で未処置歯を有する者の減少
D	悪化	6-1	【高校生】かかりつけ歯科医を有する者の増加
		8	3 歳児での不正咬合等が認められる者の減少
		9	12 歳児でう蝕のない者の増加
		12	学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の減少
		13	20 歳代における歯肉に炎症所見を有する者の減少
		14	40 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少
		24	60 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の割合の増加（55～64 歳）

■ 達成状況の分類なし（目標値が数値ではなく、達成状況を達成率で分類できないもの）

項目番号	目標項目	策定時からの変化
11	CO・GO と診断された者に対して個別指導を実施している小学校・中学校・高等学校の増加	小：減少 中・高：増加
21	60 歳で 24 歯以上の自分の歯を有する者の増加（55～64 歳）	減少
23	60 歳代における咀嚼良好者の増加	減少

図表 3　中間評価におけるライフステージ別の目標達成状況結果

ライフステージ	達成状況	項目番号	目標項目
全ライフステージ	B-	1-1	【小中高】「8020 運動」という言葉を知っている者の増加
	C	1-2	【一般】「8020 運動」という言葉を知っている者の増加
	C	2-1	【小中高】「噛ミング 30」という言葉を知っている者の増加
	C	2-2	【一般】「噛ミング 30」という言葉を知っている者の増加
	C	3-1	【小中高】フッ素入りの歯磨き剤を使用している者の増加
	C	3-2	【一般】フッ素入りの歯磨き剤を使用している者の増加
	B-	4-1	【小中高】過去 1 年間に歯科医院で口腔清掃について個別に指導をうけた者の増加
	B-	4-2	【一般】過去 1 年間に歯科医院で口腔清掃について個別に指導をうけた者の増加
	B-	5-1	【小中高】過去 1 年間に歯科健康診査を受診した者の増加
	B+	5-2	【一般】過去 1 年間に歯科健康診査を受診した者の増加
	D	6-1	【高校生】かかりつけ歯科医を有する者の増加
	B-	6-2	【一般】かかりつけ歯科医を有する者の増加
乳幼児期	B+	7	3 歳児でのう蝕のない者の増加
	D	8	3 歳児での不正咬合等が認められる者の減少
学齢期	D	9	12 歳児でう蝕のない者の増加
	A	10	中学生・高校生における歯肉に所見を有する者の減少
	分類なし	11	CO・GO と診断された者に対して個別指導を実施している小学校・中学校・高等学校の増加
	D	12	学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の減少
成人期	D	13	20 歳代における歯肉に炎症所見を有する者の減少
	D	14	40 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少
	C	15	40 歳で未処置歯を有する者の減少
	B+	16	40 歳で喪失歯のない者の増加（35～44 歳）
	B+	17	喫煙と歯周病の関係について知っている者の増加
	A	18	50 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の増加（45～54 歳）
高齢期（60歳～）	B+	19	60 歳で未処置歯を有する者の減少
	B-	20	60 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少
	分類なし	21	60 歳で 24 歯以上の自分の歯を有する者の増加（55～64 歳）

ライフステージ	達成状況	項目番号	目標項目
	B-	22	80 歳で 20 歯以上の自分の歯を有する者の増加（75～84 歳）
	分類なし	23	60 歳代における咀嚼良好者の増加
	D	24	60 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の割合の増加（55～64 歳）
妊産婦	B-	25	妊産婦歯科健康診査受診率の増加
障害児者	A	26	障害者（児）入所施設での定期的な歯科健康診査実施率の増加
要介護者	B-	27	介護老人福祉施設・介護老人保健施設での定期的な歯科健康診査実施率の増加
有病者	A	28	糖尿病と歯周病の関係について知っている者の割合の増加

5．計画期間内に再設定した目標項目

計画内 31 項目の目標の内、1 項目について、中間評価時点で策定時目標値を達成したことから、中間評価時に目標値の再設定を行いました。計画策定時から変更のあった目標項目を以下に整理しています。

項目番号	目標項目	策定時目標値	変更後目標値	備考
28	糖尿病と歯周病の関係について知っている者の割合の増加	40%	50%	中間評価時点で策定時目標値に達成したため、目標値を変更

第２章　最終評価について

１．最終評価の趣旨

「枚方市歯科口腔保健計画」は平成 28 年度から施行し、終期を「第２次枚方市健康増進計画」と合わせて令和５年度までとする８年間の計画で、最終年度である令和５年度に最終評価を実施しました。

また、最終評価では、歯科口腔保健計画で策定した目標の達成状況を明らかにすることにより、新たな課題や今後の取組方向を確認することを目的としています。「枚方市歯科口腔保健計画」の最終評価結果を、今後策定する「第２次枚方市歯科口腔保健計画（仮称）」や歯科口腔に関わる各種取組へ反映します。

２．最終評価の方法

（１）　最終評価の流れ

〔令和４年度〕

11 月　　第１回 枚方市健康推進本部 健康増進部会の開催
　　第１回 枚方市健康増進計画審議会の開催

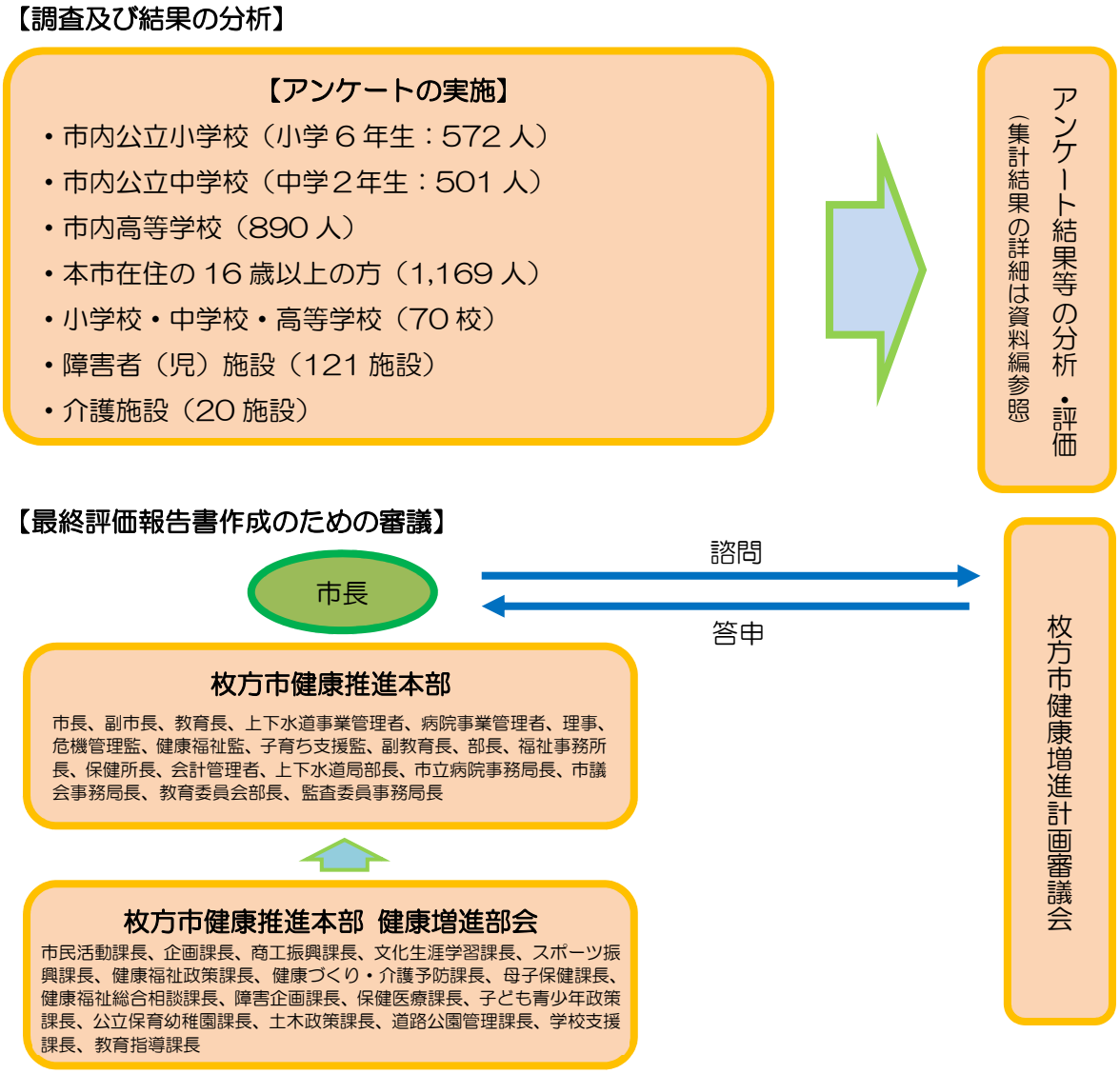
12 月～２月　　各アンケートの実施

- 枚方市民の生活習慣や歯と口の健康に関するアンケート
- 枚方市　小学生の生活習慣や歯と口の健康に関するアンケート
- 枚方市　中学生の生活習慣や歯と口の健康に関するアンケート
- 枚方市　高校生の「歯と口の健康」・「食」に関するアンケート
- 学校歯科保健アンケート
- 枚方市　障害者（児）施設における歯と口腔の健康に関するアンケート
- 枚方市　介護老人福祉施設及び介護老人保健施設における歯と口腔の健康に関するアンケート

３月　　第２回 枚方市健康推進本部 健康増進部会の開催
　　第２回 枚方市健康増進計画審議会の開催

〔令和５年度〕

６月　　第１回 枚方市健康推進本部 健康増進部会の開催
　　第１回 枚方市健康増進計画審議会の開催



（２）　最終評価の方法

目標項目の達成状況について、現状値はアンケート調査及び庁内関係各課の実績データ等を利用し、計画策定時値と現状値及び目標値の比較により、以下の判定基準を用いて目標達成度を判定しました。

図表 ４　目標達成度と判定基準

目標達成度		判定基準
A	「達成・概ね達成」	達成率 90%以上
B+	「改善」	達成率 50%以上 90%未満
B-	「やや改善」	達成率 10%以上 50%未満
C	「変化なし」	達成率－10%以上 10%未満
D	「悪化」	達成率－10%未満
「分類なし」		目標値が数値でないもの

〔達成率の考え方〕

増加目標：（現状値－計画策定時値）/（目標値－計画策定時値）

削減目標：（計画策定時値－現状値）/（計画策定時値－目標値）

３．最終評価のまとめ

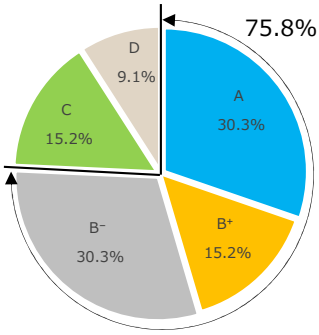
（１）　目標達成状況別まとめ

個別目標の達成状況は、33 項目中２５項目が達成～やや改善（A：30.3%、B+：15.2%、B-：30.3%）で、全体の 75.8%を占める結果となりました。

一方、C（変化なし）は５項目で 15.2%、D（悪化）は３項目で 9.1%という結果でした。

図表 ５　最終評価における目標達成度の概要

目標達成度			項目数
A	達成・概ね達成	達成率 90%以上	10(30.3%)
B+	改善	達成率 50%以上 90%未満	5(15.2%)
B-	やや改善	達成率 10%以上 50%未満	10(30.3%)
C	変化なし	達成率－10%以上 10%未満	5(15.2%)
D	悪化	達成率－10%未満	3(9.1%)
合計			33(100%)



図表 ６　最終評価における評価区分別の目標達成状況結果

■ 達成状況の分類あり

達成状況		項目番号	目標項目
A	達成・概ね達成	5-2	【一般】過去 1 年間に歯科健康診査を受診した者の増加
		6-2	【一般】かかりつけ歯科医を有する者の増加
		7	3 歳児でのう蝕のない者の増加
		10	中学生・高校生における歯肉に所見を有する者の減少
		12-3	【高校生】学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の減少
		16	40 歳で喪失歯のない者の増加（35～44 歳）
		18	50 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の増加（45～54 歳）
		22	80 歳で 20 歯以上の自分の歯を有する者の増加（75～84 歳）
		24	60 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の割合の増加（55～64 歳）
		27	介護老人福祉施設・介護老人保健施設での定期的な歯科健康診査実施率の増加
B+	改善	5-1	【小中高】過去 1 年間に歯科健康診査を受診した者の増加
		17	喫煙と歯周病の関係について知っている者の増加
		19	60 歳で未処置歯を有する者の減少
		25	妊産婦歯科健康診査受診率の増加
		28	糖尿病と歯周病の関係について知っている者の割合の増加

達成状況		項目番号	目標項目
B-	やや改善	1-1	【小中高】「8020 運動」という言葉を知っている者の増加
		1-2	【一般】「8020 運動」という言葉を知っている者の増加
		3-1	【小中高】フッ素入りの歯磨き剤を使用している者の増加
		3-2	【一般】フッ素入りの歯磨き剤を使用している者の増加
		4-1	【小中高】過去 1 年間に歯科医院で口腔清掃について個別に指導をうけた者の増加
		4-2	【一般】過去 1 年間に歯科医院で口腔清掃について個別に指導をうけた者の増加
		6-1	【高校生】かかりつけ歯科医を有する者の増加
		13	20 歳代における歯肉に炎症所見を有する者の減少
		15	40 歳で未処置歯を有する者の減少
		20	60 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少
C	変化なし	2-1	【小中高】「噛ミング 30」という言葉を知っている者の増加
		2-2	【一般】「噛ミング 30」という言葉を知っている者の増加
		12-2	【中学生】学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の減少
		14	40 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少
		26	障害者（児）入所施設での定期的な歯科健康診査実施率の増加
D	悪化	8	3 歳児での不正咬合等が認められる者の減少
		9	12 歳児でう蝕のない者の増加
		12-1	【小学生】学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の減少

■ 達成状況の分類なし（目標値が数値ではなく、達成状況を達成率で分類できないもの）

項目番号	目標項目	目標値	策定時からの変化
11	CO・GO と診断された者に対して個別指導を実施している小学校・中学校・高等学校の増加	全校で実施	小：増加 中：横ばい 高：横ばい
21	60 歳で 24 歯以上の自分の歯を有する者の増加（55～64 歳）	さらなる増加	増加
23	60 歳代における咀嚼良好者の増加	さらなる増加	横ばい

（2）　ライフステージ別に見た達成状況

ライフステージ別では、乳幼児期においては、３歳児での不正咬合等が認められる者の目標達成状況が低い結果となりました。また、学齢期においては、12 歳児でう蝕のある者が増加している、学校歯科健康診断の結果について認知している者の割合が目標値に照らして低いなど課題が残る結果となりました。成人期に関しては、20 歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合や、40 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少に改善が見られないなど、一部課題は残るものの概ね良好な結果となっています。

また、高齢期は、各目標について、概ね改善傾向であり、歯間部清掃用器具を使用する者の割合が目標値を上回っているなど、日ごろから必要なケアが行われていることが伺われ、80 歳で 20 歯以上自分の歯を有する者（8020 を達成している者）も半数を超える結果となりました。

妊産婦、要介護者、有病者といった歯科医院の受診や日頃の歯と口のケアに配慮を要する者に関しての各目標項目は概ね改善傾向にありました。

図表 7　最終評価におけるライフステージ別の目標達成状況結果

ライフステージ	達成状況	項目番号	目標項目
全ライフステージ	B-	1-1	【小中高】「8020 運動」という言葉を知っている者の増加
	B-	1-2	【一般】「8020 運動」という言葉を知っている者の増加
	C	2-1	【小中高】「噛ミング 30」という言葉を知っている者の増加
	C	2-2	【一般】「噛ミング 30」という言葉を知っている者の増加
	B-	3-1	【小中高】フッ素入りの歯磨き剤を使用している者の増加
	B-	3-2	【一般】フッ素入りの歯磨き剤を使用している者の増加
	B-	4-1	【小中高】過去 1 年間に歯科医院で口腔清掃について個別に指導をうけた者の増加
	B-	4-2	【一般】過去 1 年間に歯科医院で口腔清掃について個別に指導をうけた者の増加
	B+	5-1	【小中高】過去 1 年間に歯科健康診査を受診した者の増加
	A	5-2	【一般】過去 1 年間に歯科健康診査を受診した者の増加
	B-	6-1	【高校生】かかりつけ歯科医を有する者の増加
	A	6-2	【一般】かかりつけ歯科医を有する者の増加
乳幼児期	A	7	3 歳児でのう蝕のない者の増加
	D	8	3 歳児での不正咬合等が認められる者の減少
学齢期	D	9	12 歳児でう蝕のない者の増加
	A	10	中学生・高校生における歯肉に所見を有する者の減少
	分類なし	11	CO・GO と診断された者に対して個別指導を実施している小学校・中学校・高等学校の増加
	D	12-1	【小学生】学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の減少
	C	12-2	【中学生】学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の減少
	A	12-3	【高校生】学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の減少

ライフステージ	達成状況	項目番号	目標項目
成人期	B-	13	20 歳代における歯肉に炎症所見を有する者の減少
	C	14	40 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少
	B-	15	40 歳で未処置歯を有する者の減少
	A	16	40 歳で喪失歯のない者の増加（35～44 歳）
	B+	17	喫煙と歯周病の関係について知っている者の増加
	A	18	50 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の増加（45～54 歳）
高齢期（60 歳～）	B+	19	60 歳で未処置歯を有する者の減少
	B-	20	60 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少
	分類なし	21	60 歳で 24 歯以上の自分の歯を有する者の増加（55～64 歳）
	A	22	80 歳で 20 歯以上の自分の歯を有する者の増加（75～84 歳）
	分類なし	23	60 歳代における咀嚼良好者の増加
	A	24	60 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の割合の増加（55～64 歳）
妊産婦	B+	25	妊産婦歯科健康診査受診率の増加
障害児者	C	26	障害者（児）入所施設での定期的な歯科健康診査実施率の増加
要介護者	A	27	介護老人福祉施設・介護老人保健施設での定期的な歯科健康診査実施率の増加
有病者	B+	28	糖尿病と歯周病の関係について知っている者の割合の増加

４．目標達成状況の詳細

（１）　歯科口腔保健推進の方向性を踏まえた目標

「歯科口腔保健推進の方向性を踏まえた目標」として、計６つの目標項目を設定しており、各目標について、学齢期と市民一般それぞれの指標を設定しています。

達成状況Ｃであった「項目番号２：「噛ミング 30」という言葉を知っている者の増加」を除き、達成状況 A～B-の評価となっており、改善傾向となっています。

まず、項目番号１と２は、それぞれ「8020 運動」「噛ミング 30」という言葉の認知度増加を目標としたものです。特に「8020 運動」は、１頁に記載のとおり、「基本目標実現のための取組の方向性・重点的対策」を包含した重要な理念となっていますので、さらなる普及啓発を進めていきます。

次に、「項目番号３：フッ素入りの歯磨き剤を使用している者の増加」に関して、歯磨きを行う際にフッ素配合の歯磨き剤を使用することは、う蝕予防のセルフケアとして大変重要です。今回の最終評価としては、フッ素入りの歯磨き剤を使用している者は、小中学生・高校生で 45.5%、一般市民で 55.4%となっていますが、フッ素入りか分からない歯磨き剤を使用している者を含めると、小中学生・高校生で 90%、一般市民で 80%を超える結果となっています。市販の歯磨き剤の９割以上にフッ素が配合されているため、自然とフッ素が配合された歯磨き剤を手に取る環境が整っており、フッ素配合の有無を意識せず、利用されている人が多いと推察されます。

項目番号４～６は、歯科医院等による定期的な指導や健康診査に関する目標です。歯科医院等で早期にう蝕や歯周炎等を発見し、早期に治療を開始することにより、健全な口腔環境を維持することができます。また、口腔清掃等について、定期的に指導を受けることにより、日ごろのセルフケアを見直す機会にもなります。これらの目標項目については、いずれも策定時、中間評価時、最終評価時の順に、段階的に改善しており、健全な口腔環境を維持することへの意識が高まっていることが伺えます。なお、図表 18、21 に示すとおり、年齢が低いほど、過去１年間に歯科健康診査を受診した者やかかりつけ歯科医を有する者の割合は低い傾向にあるため、成人期、特に若年層へのさらなる普及啓発を進めていきます。

項目番号	目標項目	策定時値 (H26 年度) 小学生 n=530 中学生 n=708 高校生 n=453 一般　n=867	中間評価値 (H30 年度) 小学生 n=585 中学生 n=700 高校生 n=468 一般 n=1,217	現状値 (R4 年度) 小学生 n=572 中学生 n=501 高校生 n=890 一般 n=1,169	目標値 (R5 年度)	達成状況
1-1	「8020 運動」という言葉を知っている者の増加	小・中・高 4.5% （17.9%※1）	小・中・高 14.3% （34.8%※1）	小・中・高 16.5% （36.3%※1）	80%	B-
1-2		一般 27.8% （55.8%※1）	一般 29.7% （56.6%※1）	一般 35.1% （66.6%※1）		B-
2-1	「噛ミング 30」という言葉を知っている者の増加	小・中・高 3.8% （18.4%※1）	小・中・高 5.9% （25.9%※1）	小・中・高 8.2% （28.4%※1）	80%	C
2-2		一般 8.4% （26.4%※1）	一般 9.4% （32.2%※1）	一般 8.2% （33.9%※1）		C

3-1	フッ素入りの歯磨き剤を使用している者の増加	小・中・高 36.2% （92.0%※2）	小・中・高 36.7% （90.6%※2）	小・中・高 45.5% （91.8%※2）	90%	B-
3-2		一般 45.9% （72.3%※2）	一般 49.1% （79.3%※2）	一般 55.4% （80.5%※2）		B-
4-1	過去 1 年間に歯科医院で口腔清掃について個別に指導をうけた者の増加	小・中・高 25.0%	小・中・高 31.8%	小・中・高 34.6%	65%	B-
4-2		一般 51.4%※3 （n=544）	一般 55.9%※3 （n=803）	一般 57.9%※3 （n=894）		B-
5-1	過去 1 年間に歯科健康診査を受診した者の増加	小・中・高 28.9%	小・中・高 36.4%	小・中・高 52.7%	65%	B+
5-2		一般 59.1%	一般 63.8%	一般 67.8%		A
6-1	かかりつけ歯科医を有する者の増加	高校生 55.8%	高校生 41.9%	高校生 60.7%	70%	B-
6-2		一般 62.8%	一般 66.0%	一般 76.5%		A

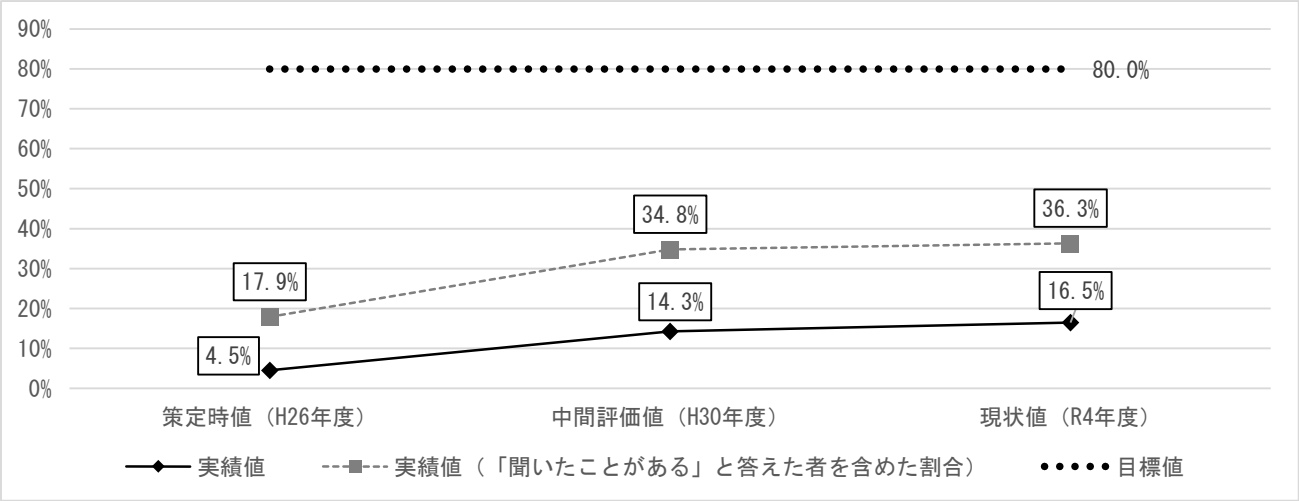
出典：枚方市民の生活習慣や歯と口の健康に関するアンケート、
枚方市　小学生の生活習慣や歯と口の健康に関するアンケート、
枚方市　中学生の生活習慣や歯と口の健康に関するアンケート、
枚方市　高校生の「歯と口の健康」・「食」に関するアンケート

※１：「聞いたことがある」と答えた者を含めた割合

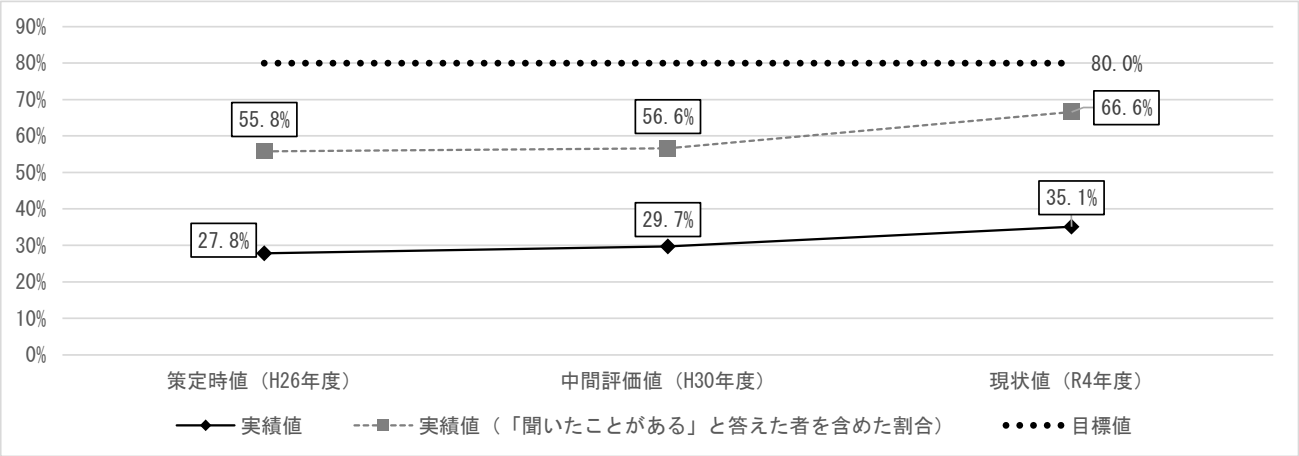
※２：市販の歯磨き剤の９割以上にフッ化物が配合されているため、「フッ素入りかわからない歯磨き剤を使用している」と答えた者を含めた割合

※３：「かかりつけ歯科医を有する者」のうち、「過去 1 年間に歯科医院で口腔清掃について個別に指導をうけた者」の割合

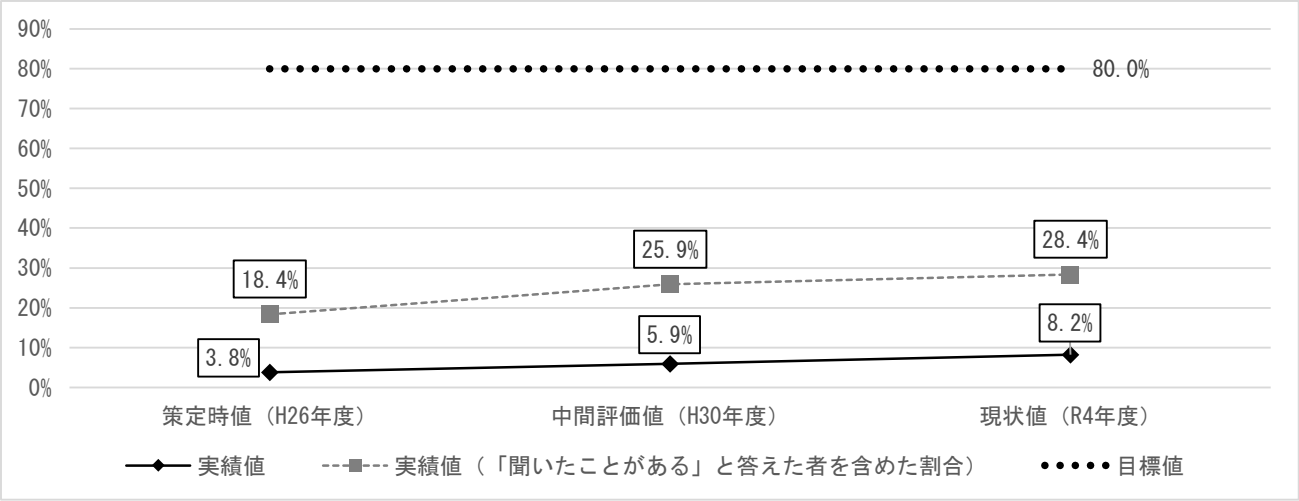
図表 8　（項目番号 1-1）「8020 運動」という言葉を知っている者の割合（小学生・中学生・高校生）



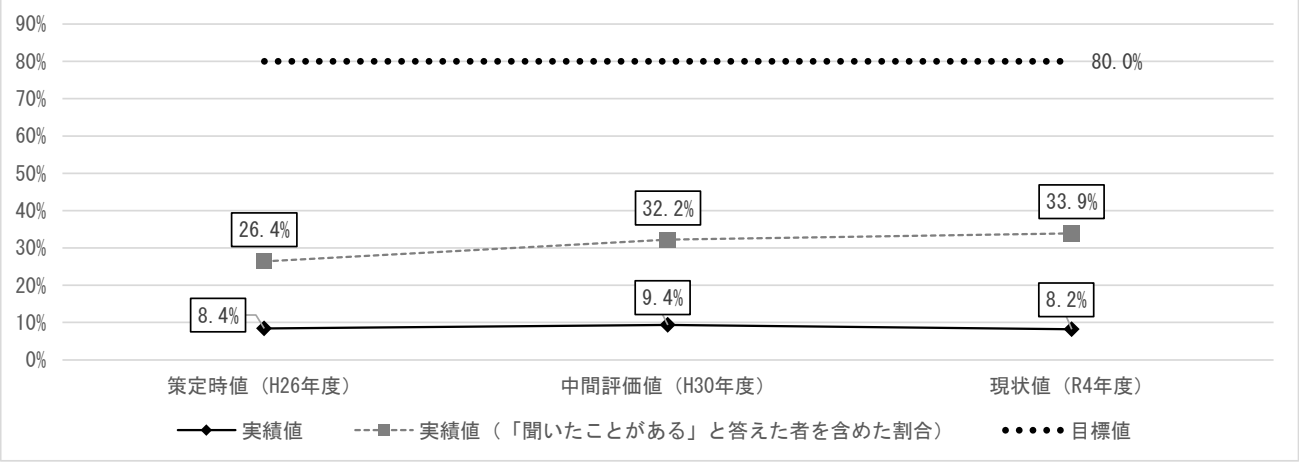
図表 9　（項目番号 1-2）「8020 運動」という言葉を知っている者の割合（一般）



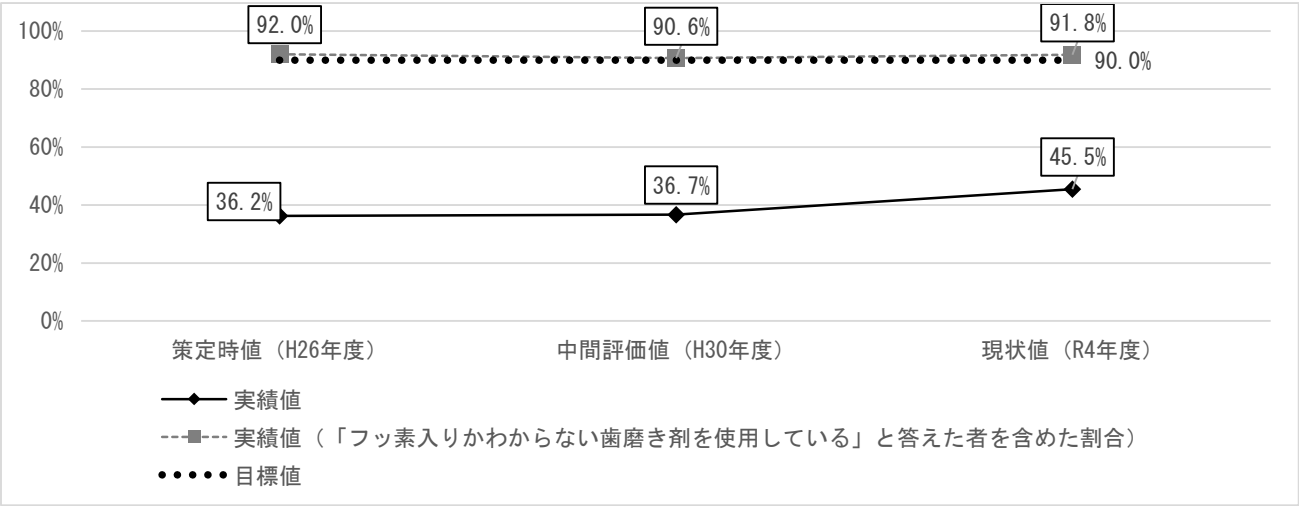
図表 10　（項目番号 2-1）「噛ミング 30」という言葉を知っている者の割合
（小学生・中学生・高校生）



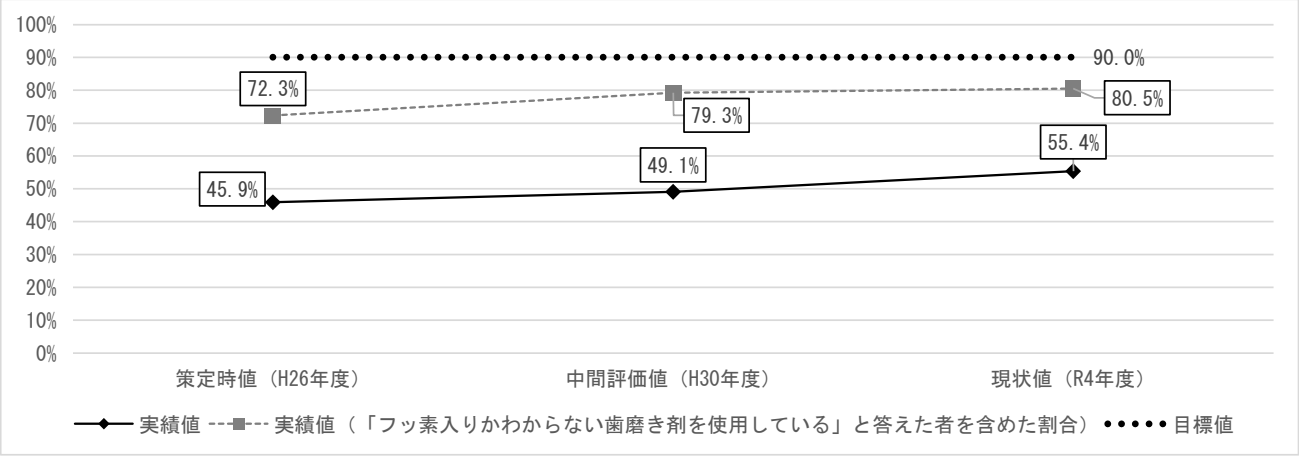
図表 11　（項目番号 2-2）「噛ミング 30」という言葉を知っている者の割合（一般）



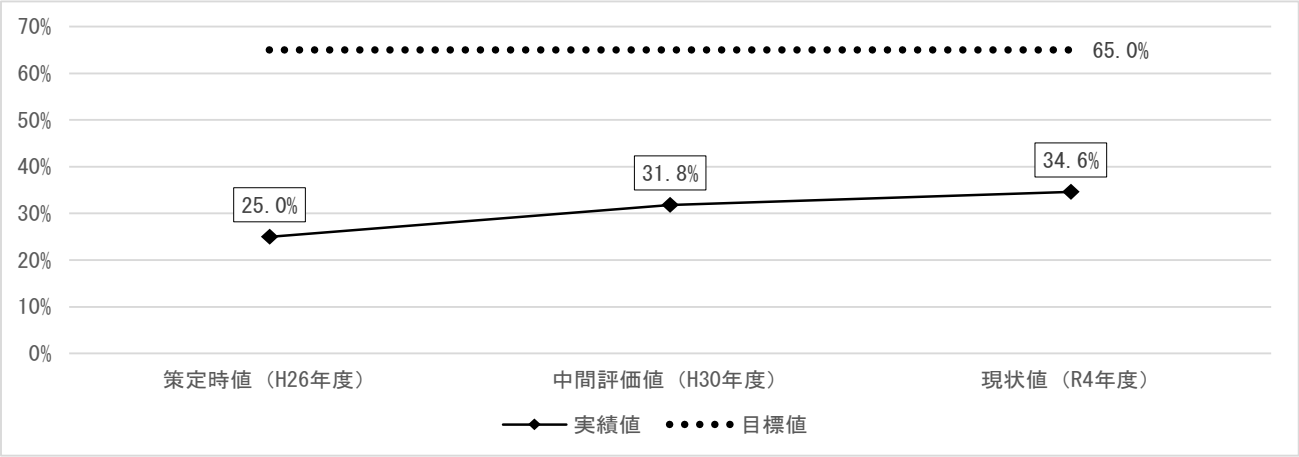
図表 12　（項目番号 3-1）フッ素入りの歯磨き剤を使用している者の割合
（小学生・中学生・高校生）



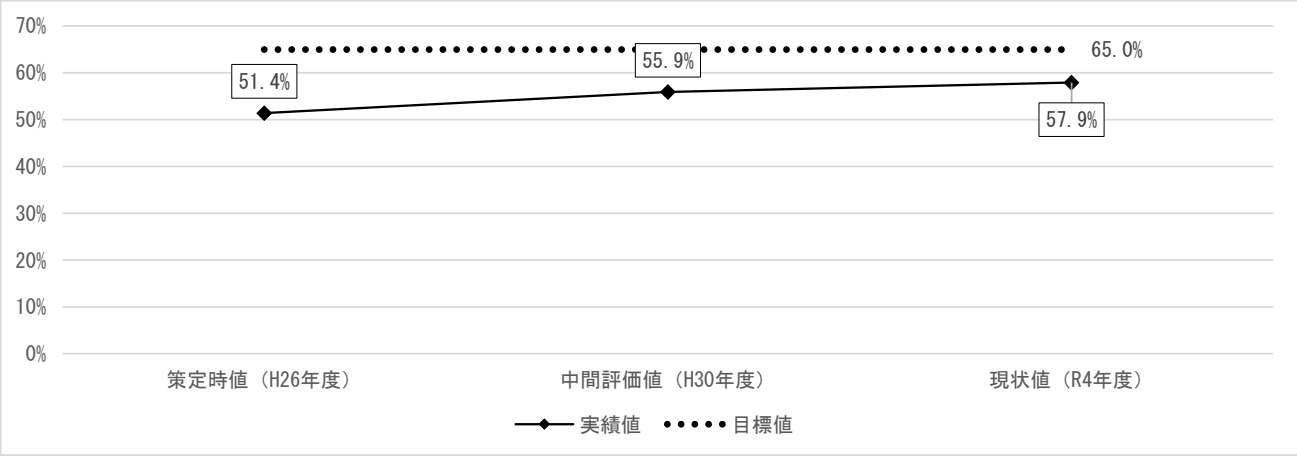
図表 13　（項目番号 3-2）フッ素入りの歯磨き剤を使用している者の割合（一般）



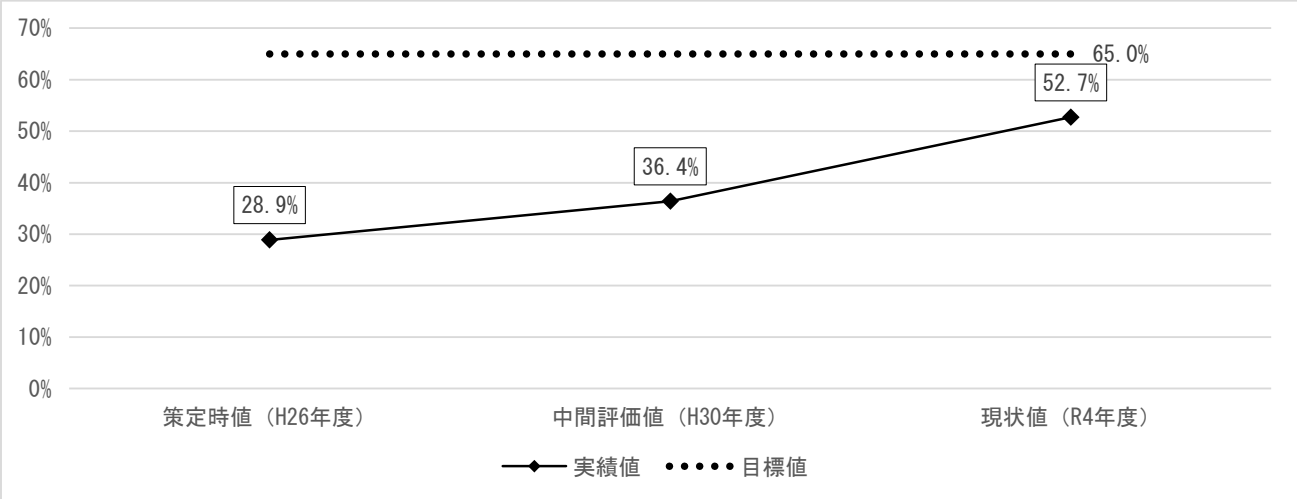
図表 14　（項目番号 4-1）過去 1 年間に歯科医院で口腔清掃について
個別に指導をうけた者の割合（小学生・中学生・高校生）



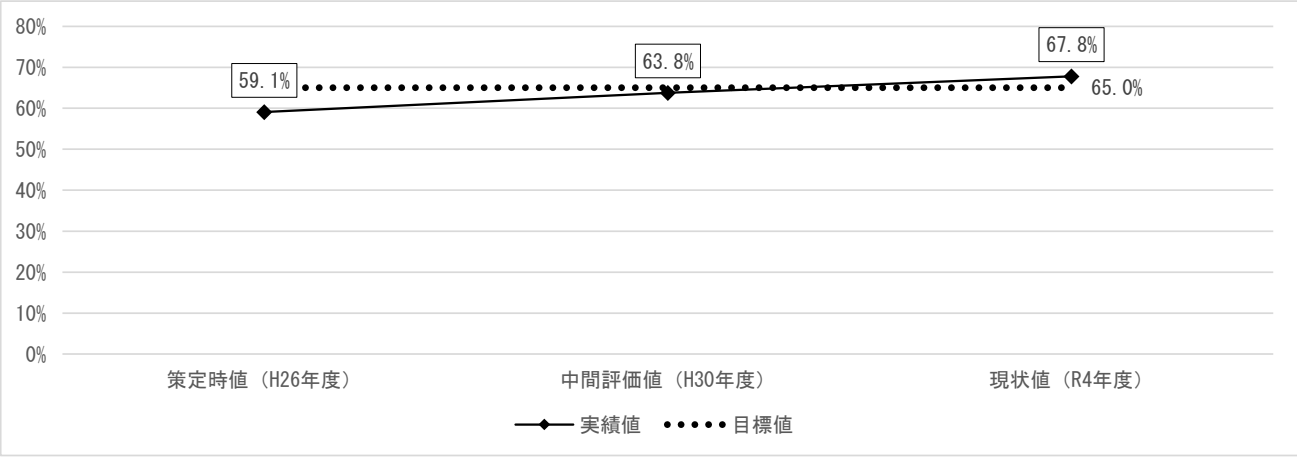
図表 15　（項目番号 4-2）過去 1 年間に歯科医院で口腔清掃について個別に指導をうけた者の割合（一般）



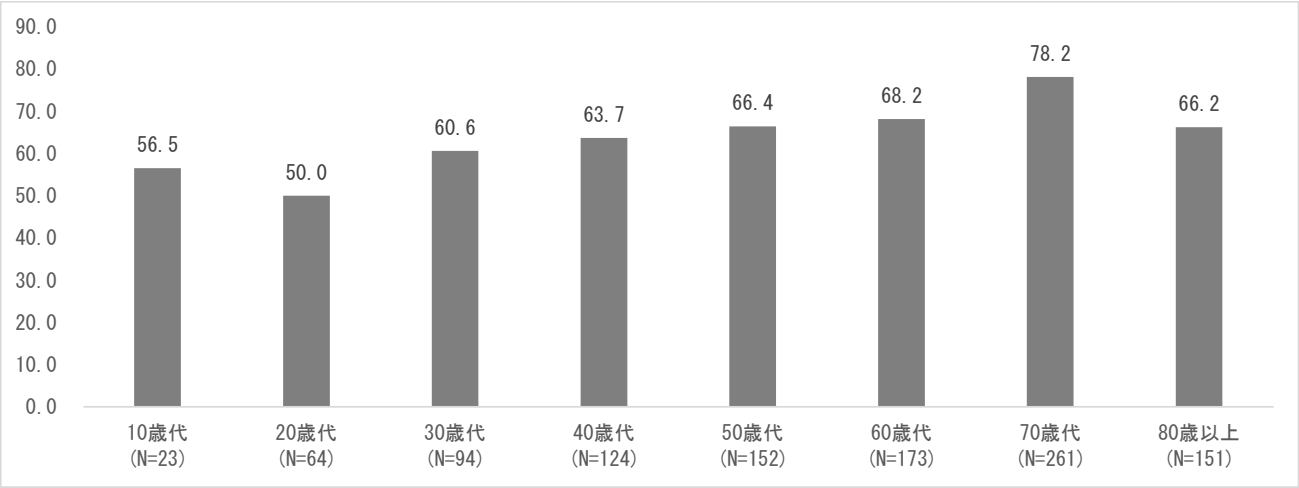
図表 16　（項目番号 5-1）過去 1 年間に歯科健康診査を受診した者の割合（小学生・中学生・高校生）



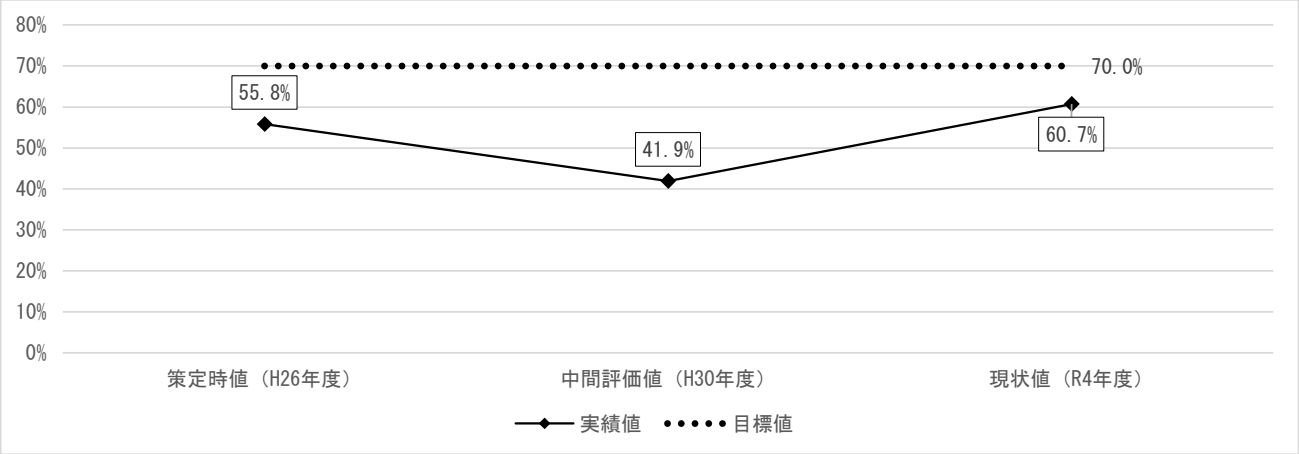
図表 17　（項目番号 5-2）過去 1 年間に歯科健康診査を受診した者の割合（一般）



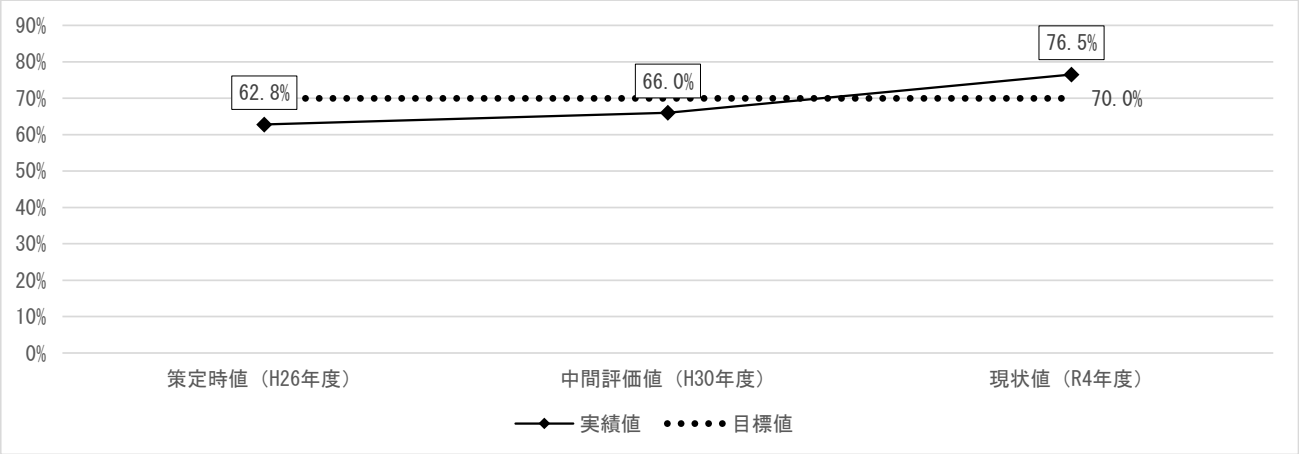
図表 18　過去１年間に歯科健康診査を受診した者の割合（年齢別）



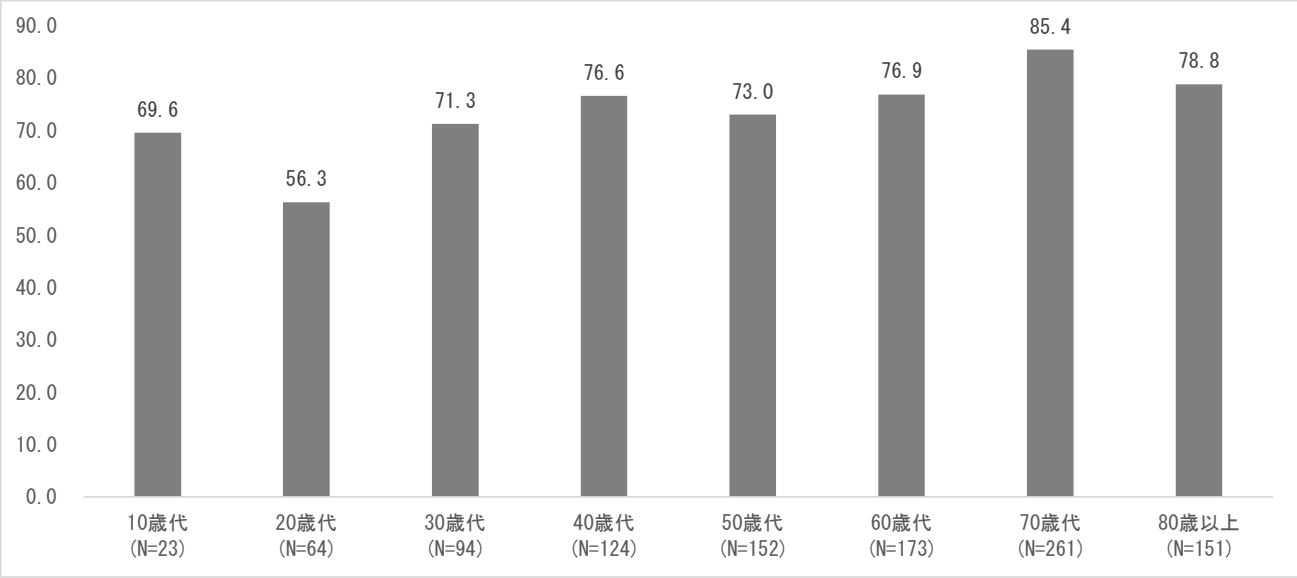
図表 19　（項目番号６-1）かかりつけ歯科医を有する者の割合（小学生・中学生・高校生）



図表 20　（項目番号６-2）かかりつけ歯科医を有する者の割合（一般）



図表 21　かかりつけ歯科医を有する者の割合（年齢別）



（２）　重点的歯科口腔保健対策

①　ライフステージ別の課題と取組

(ア) 乳幼児期（０～６歳）の歯科口腔保健

乳幼児期に関する目標項目として、「項目番号７：３歳児でのう蝕のない者の増加」「項目番号８：３歳児での不正咬合等が認められる者の減少」の２つを掲げています。

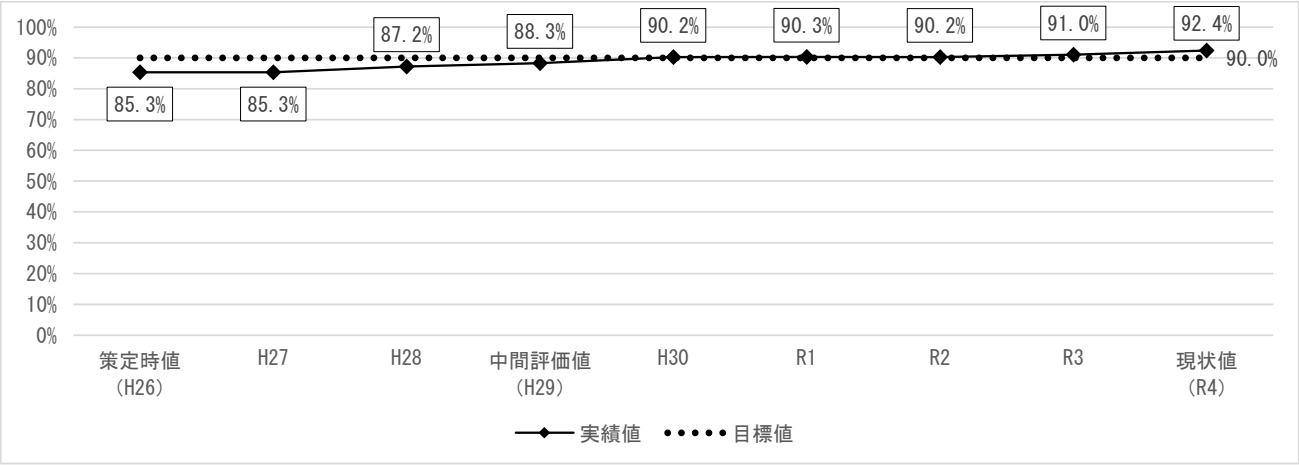
「項目番号７：３歳児でのう蝕のない者の増加」は、現状値 92.4%で、目標値 90%を上回り、達成状況 A の結果となりました。図表 22 に示すとおり、策定時以降、緩やかに改善しており、平成 30 年以降は 90%を上回る値で推移しています。国の計画における同目標でも、図表 23 に示すとおり、継続的に改善している傾向が伺え、最終評価時（令和元年）では 88.1%と報告されています。国の結果と比べても、本市の数値は良い結果となっています。

「項目番号８：３歳児での不正咬合等が認められる者の減少」は、現状値では、策定時から 3.5%増加の 15.9%の結果となり、達成状況 D となりました。国の計画においても、図表 25 に示すとおり、平成 28 年以降、悪化している傾向が伺えます。本目標項目は達成状況 D となっていますが、３歳児は乳歯列でかつ顎顔面の発育途上であることから、経過観察となることが多く、実際の介入につながらないため、次期計画以降においては、乳幼児期の口腔環境を把握するためのより効果的な目標項目を検討していきます。

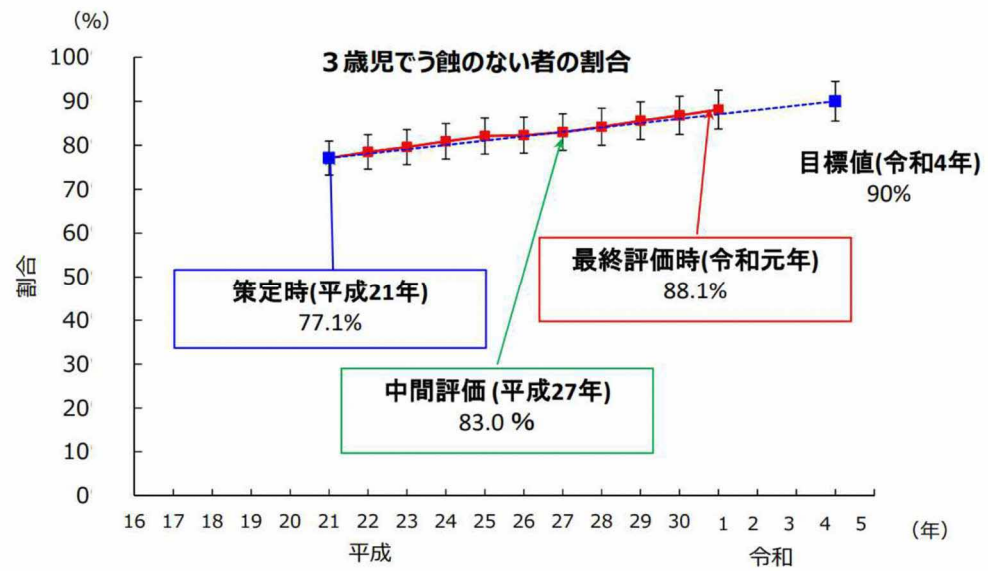
項目番号	目標項目	策定時値 (H26 年度)	中間評価値 (H29 年度)	現状値 (R4 年度)	目標値 (R5 年度)	達成状況
7	3 歳児でのう蝕のない者の増加	85.3% (n=2,935)	88.3% (n=2,779)	92.4% (n=2,565)	90%	A
8	3 歳児での不正咬合等が認められる者の減少	12.4% (n=2,935)	12.9% (n=2,779)	15.9% (n=2,565)	10%	D

出典：枚方市母子保健事業実績報告（３歳６か月児健康診査結果）

図表 22　（項目番号７）３歳児でのう蝕のない者の割合

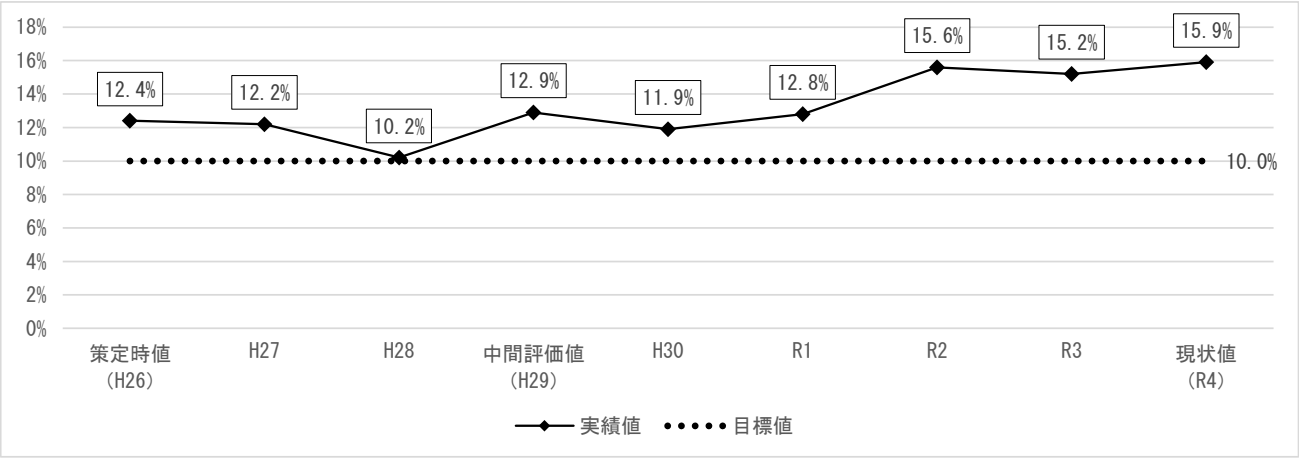


図表 23　全国における３歳児でう蝕がない者の割合

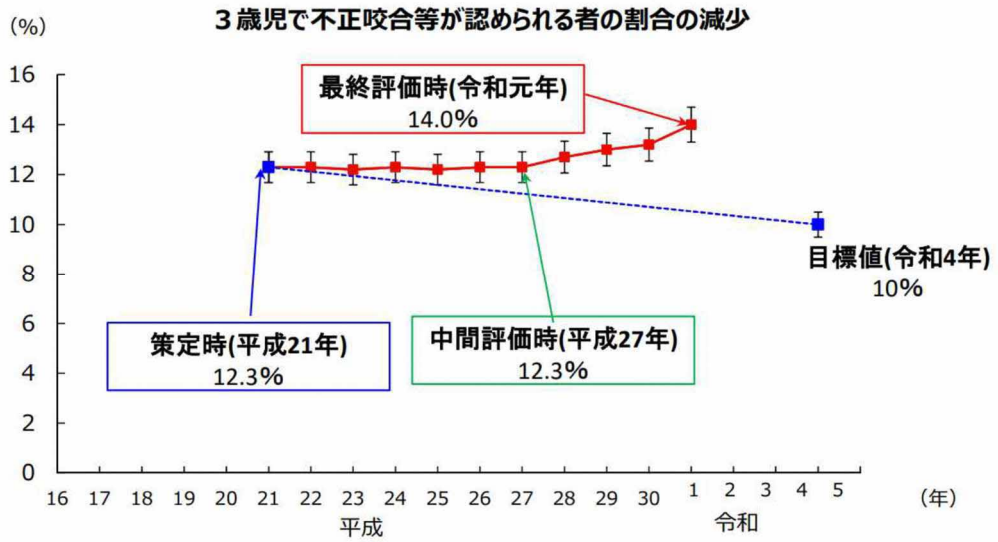


出典：歯科口腔保健の推進に関する基本的事項最終評価報告書
※厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」より作成

図表 24　（項目番号８）３歳児での不正咬合等が認められる者の割合



図表 25　３歳児で不正咬合等が認められる者の割合



出典：歯科口腔保健の推進に関する基本的事項最終評価報告書
※厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」より作成

(イ) 学齢期（７～18 歳）の歯科口腔保健

学齢期における目標項目は、項目番号９～12 の４項目を設定しています。（項目番号 12 は小学生・中学生・高校生ごとに指標を設定）学齢期全体でみると、達成状況は、A～D まで様々な状況です。

まず、「項目番号９：12 歳児でう蝕のない者の増加」については、現状値 53.3%となっており、達成状況 D となりました。前述の「項目番号７：３歳児でのう蝕のない者の増加」で、達成状況 A となったこととは対照的な結果となりました。食生活の習慣において「間食することが多い」「あまいものを食べることが多い」と回答した割合も高く、これらも、う蝕を有する者の割合に影響を与えている可能性もあると推測されます。これらより、幼児期後半から学齢期における、う蝕予防のさらなる啓発が必要であると考えられます。

「項目番号 10：中学生・高校生における歯肉に所見を有する者の減少」は、策定時、中間評価時、最終評価時の順に、段階的に改善しており、達成状況 A の結果となりました。歯科医院で指導を受ける者の割合が増加していることが背景にあると考えます。

「項目番号 11：CO・GO と診断された者に対して個別指導を実施している小学校・中学校・高等学校の増加」は、策定時からの変化として評価をしていますが、小学校は増加、中学校と高校は横ばいの結果となりました。学習指導要領（平成 29 年告示）では、学校教育活動を通じてう蝕や歯肉の病気の予防を指導することが定められているため、評価結果としては課題が残りますが、学校教育活動においては指導を受けていると考えられます。

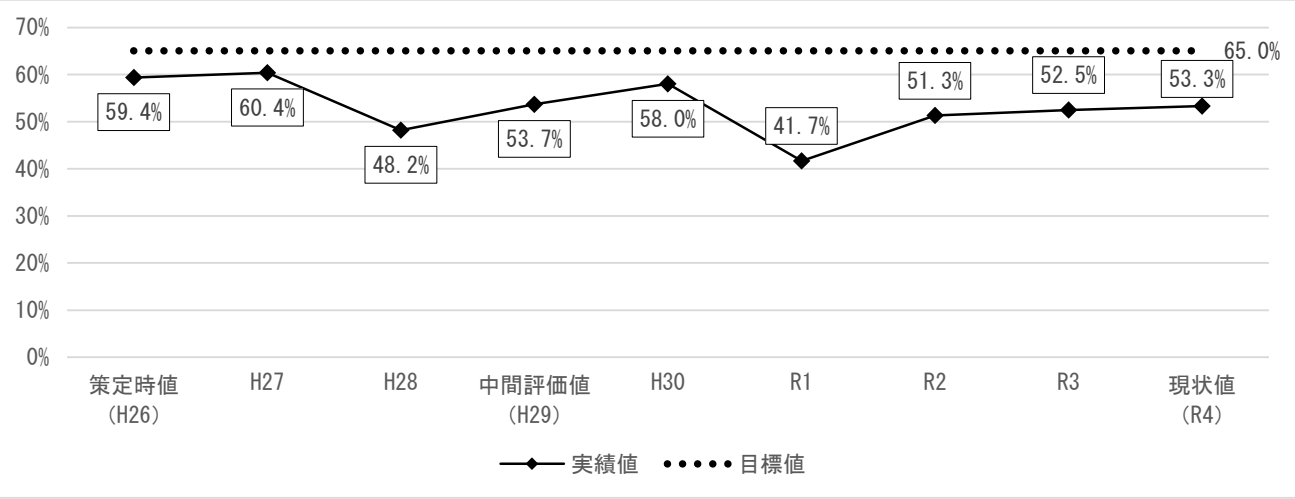
また「項目番号 12：学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の減少」は、小学生は達成状況 D、中学生は達成状況 C、高校生は達成状況 A の結果となりました。策定時、中間評価時、最終評価時の経年の変化をみると、本項目は他の項目に比べて変動率が大きくなっており、アンケートの実施時期と、学校健康診査の時期の関係において、結果に大きく影響していると考えられます。「項目番号 11、12」については、次期計画において目標項目の設定などについて検討が必要です。

項目番号	目標項目	策定時値(H26 年度)	中間評価値(H29 年度)	現状値(R4 年度)	目標値(R5 年度)	達成状況※1
9	12 歳児でう蝕のない者の増加	59.4%	53.7%（n=3,350）	53.3%（n=3,175）	65%	D
10	中学生・高校生における歯肉に所見を有する者の減少	22.9%	19.8%（n=9,133）	15.1%（n=7,032）	20%	A
11	CO・GO と診断された者に対して個別指導を実施している小学校・中学校・高等学校の増加	小学校 4/45 校 中学校 0/19 校 高等学校 2/6 校	小学校 2/45 校 中学校 2/19 校 高等学校 3/6 校	小学校 8/43 校 中学校 0/18 校 高等学校 2/9 校	全校で実施	小学校 増加 中学校 横ばい 高校 横ばい
12-1	学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の減少（小学生）	小学生 24.9%（n=530）	小学生 26.7%（n=585）	小学生 37.2%（n=572）	小学生 13%	小学生 D
12-2	学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の減少（中学生）	中学生 30.4%（n=708）	中学生 35.3%（n=700）	中学生 29.7%（n=501）	中学生 15%	中学生 C
12-3	学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の減少（高校生）	高校生 25.6%（n=453）	高校生 29.9%（n=468）	高校生 2.0%（n=890）	高校生 13%	高校生 A

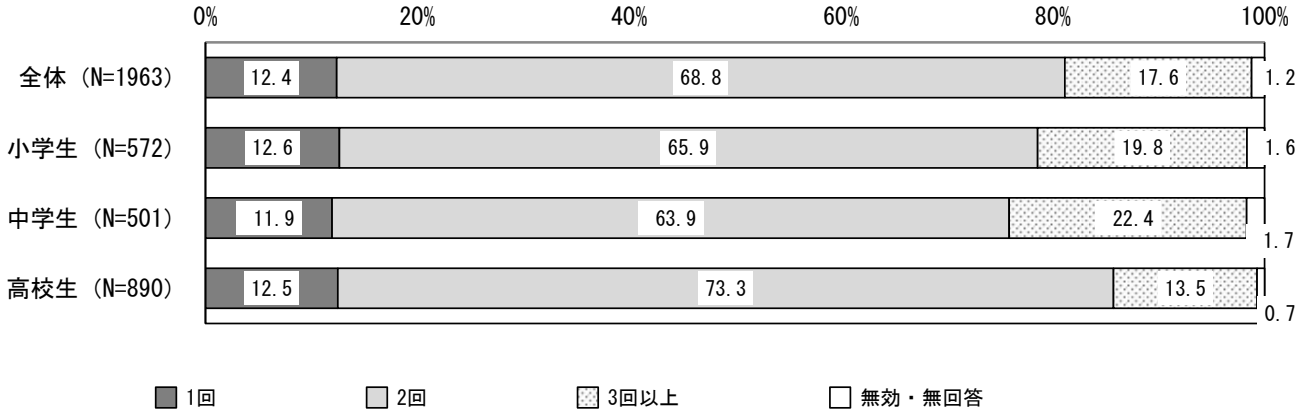
出典：枚方市学校健康歯科診断（項目番号９、10）、
枚方市　小学生の生活習慣や歯と口の健康に関するアンケート、
枚方市　中学生の生活習慣や歯と口の健康に関するアンケート、
枚方市　高校生の「歯と口の健康」・「食」に関するアンケート（項目番号 11、12）

※1：項目番号 11 は「策定時からの変化」

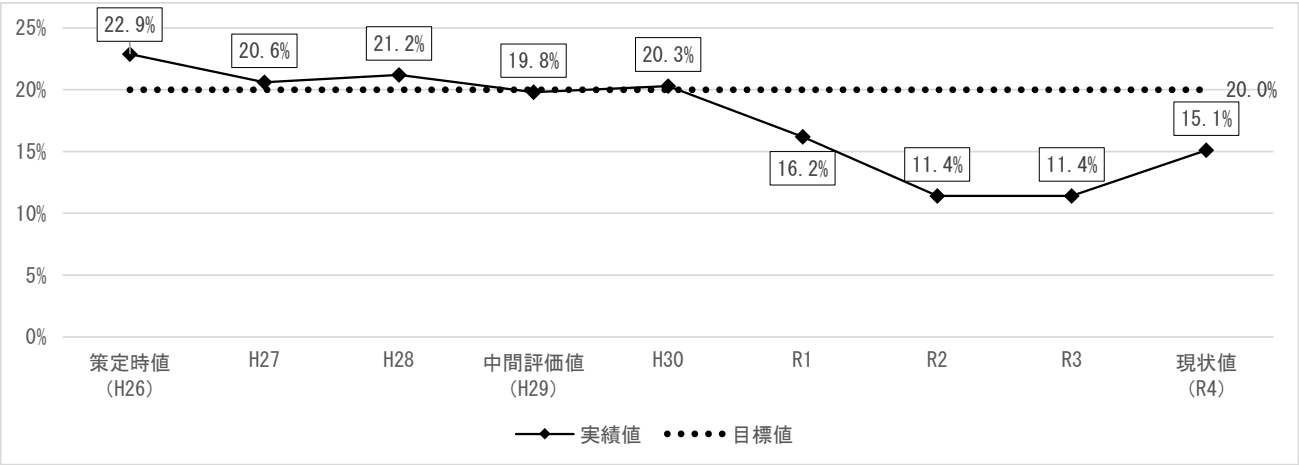
図表 26　（項目番号９）12 歳児でう蝕のない者の割合



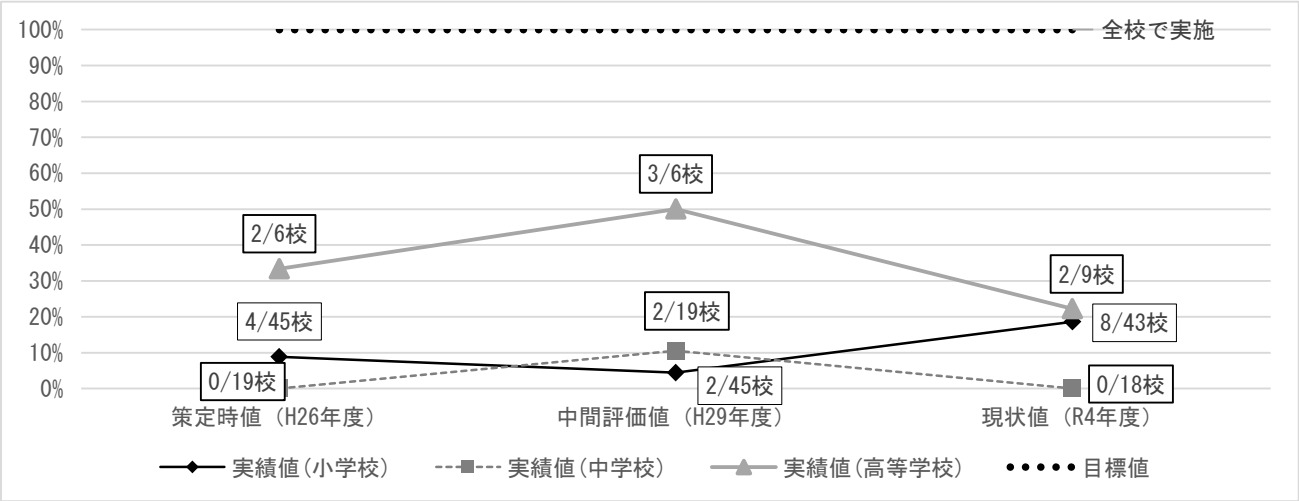
図表 27　１日の歯磨き回数



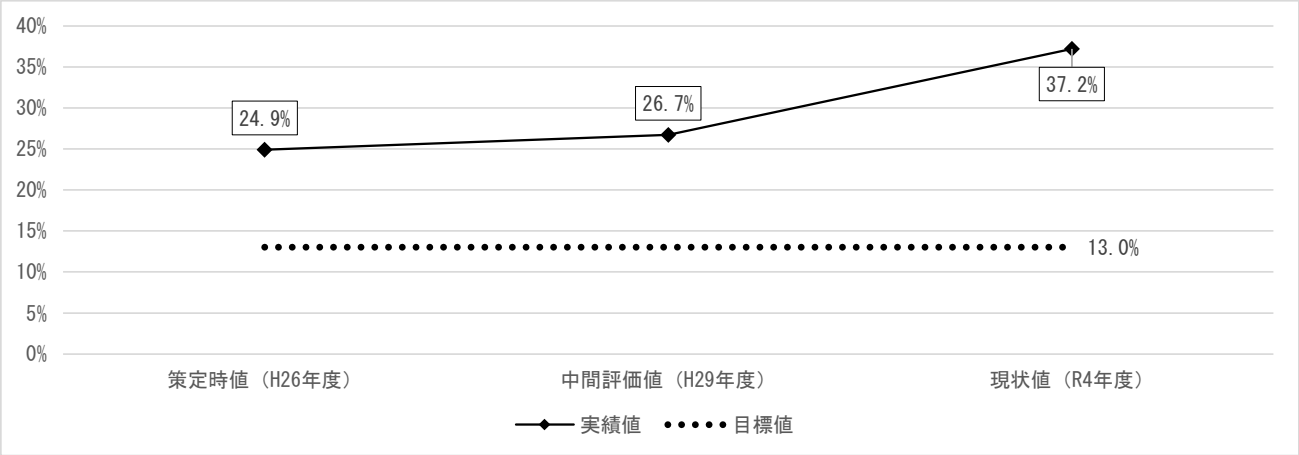
図表 28　（項目番号 10）中学生・高校生における歯肉に所見を有する者の割合



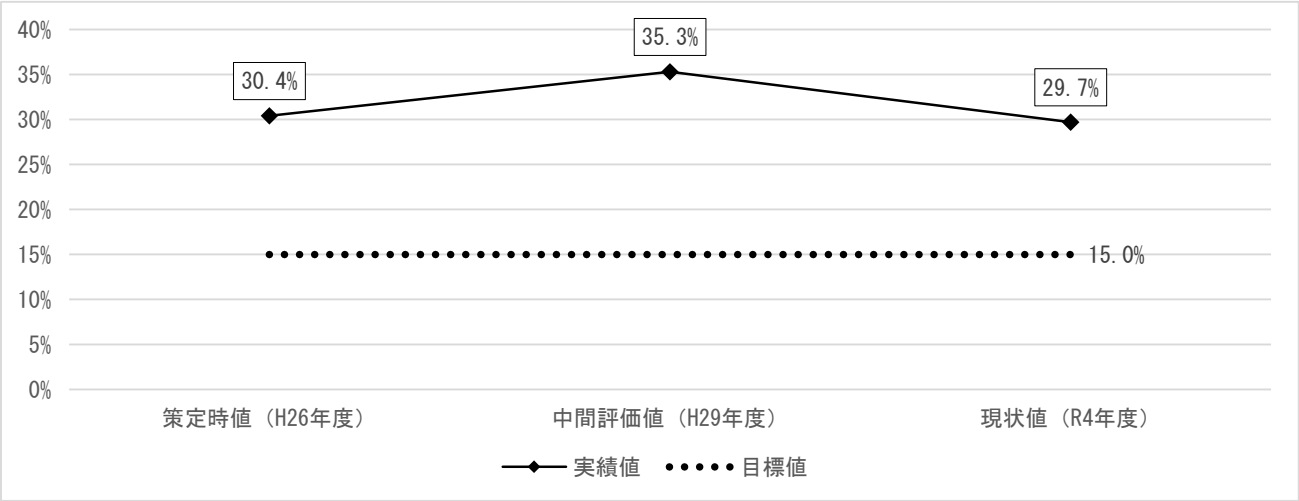
図表 29　（項目番号 11）CO・GO と診断された者に対して個別指導を実施している小学校・中学校・高等学校数



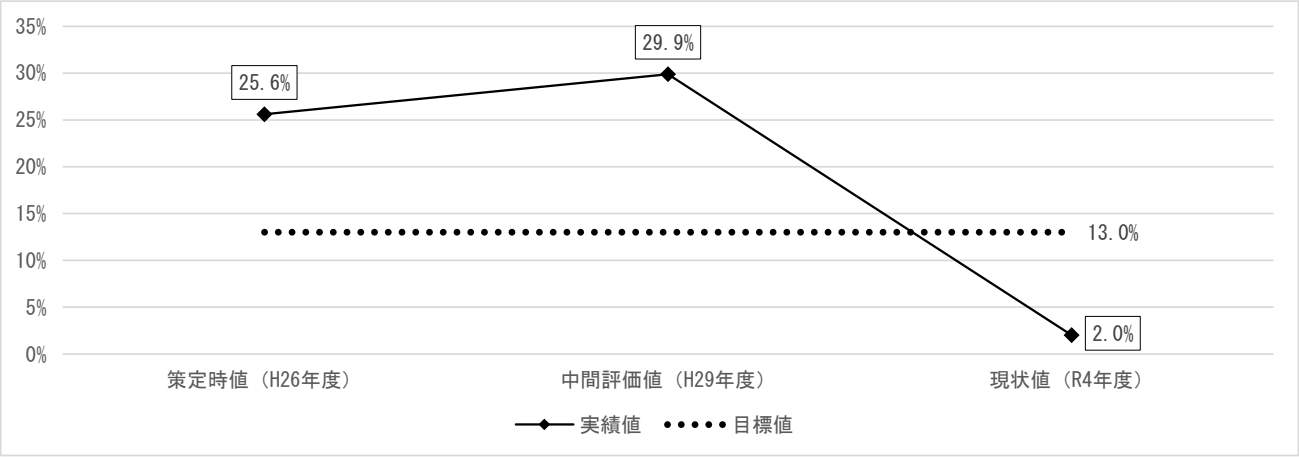
図表 30　（項目番号 12）学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の割合（小学生）



図表 31　（項目番号 12）学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の割合（中学生）



図表 32　（項目番号 12）学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の割合（高校生）



(ウ) 成人期（19～59 歳）の歯科口腔保健

成人期の歯科口腔保健に関する目標項目としては、項目番号 13～18 の６つの目標を設定しています。達成状況は「項目番号 14：40 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少」を除き、A～B-の結果となり、改善傾向が伺えた一方、「項目番号 14：40 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少」は達成状況 C の結果となりました。

項目番号 13、14 は歯肉炎・歯周炎に関する目標項目として設定しています。「項目番号 13：20 歳代における歯肉に炎症所見を有する者の減少」は現状値 40.0%となり、達成状況 B-の結果となりました。なお、図表 33 が示すとおり、20 歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合は、令和元年以前は 40%台前半～中盤で推移していましたが、概ね近年は 40%以下となっており、日ごろのセルフケアや定期的な歯科受診の結果が表れてきているものと考えられます。「項目番号 14：40 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少」について、40 歳代における進行した歯周炎を有する者の割合は、直近５年は 50%後半から 60%前半で推移しており、最終的には達成状況 C となり課題が残る結果となりました。

「項目番号 15：40 歳で未処置歯を有する者の減少」、「項目番号 16：40 歳で喪失歯のない者の増加」は、将来の残存歯にも直接関わり、「8020」の実現において重要な目標です。項目番号 15 は達成状況 B-、項目番号 16 は達成状況 A の結果となりました。なお、「項目番号 15：40 歳で未処置歯を有する者の減少」について、図表 35 に示すとおり、近年改善傾向にあり、未処置歯を放置することなく、早期に治療を受けることに対する意識が向上しているものと考えられます。

「項目番号 17：喫煙と歯周病の関係について知っている者の増加」に関して、喫煙者は非喫煙者に比べ、歯周病が悪化しやすいと言われており、これに関する認知度を測定する項目です。策定時、中間評価時、最終評価時の順に改善しており、達成状況 B+の結果となりました。喫煙者自体の数は近年減少傾向にあるとともに、喫煙と歯周病の関係については認知度が高まっていると考えられ、好ましい傾向が伺えます。

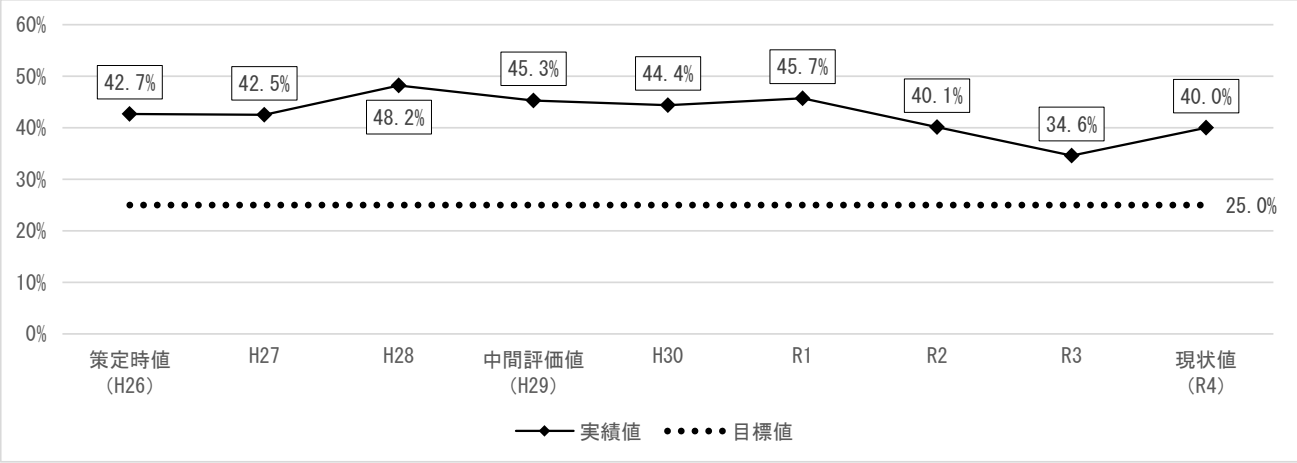
「項目番号 18：50 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の増加」に関しては、策定時、中間評価時、最終評価時の順に改善しており、達成状況 A の結果となりました。図表 39 に示すとおり、歯間ブラシを使用する者が 37.5%、デンタルフロス（糸ようじ）を使用する者が 25.4%となっています。歯間部清掃用器具の使用は歯周炎対策としても重要な要素であるため、今後もさらなる普及啓発を進めていきます。

項目番号	目標項目	策定時値(H26 年度)	中間評価値(項目番号 13～15：H29 年度 項目番号 16～18：H30 年度)	現状値(R4 年度)	目標値(R5 年度)	達成状況
13	20 歳代における歯肉に炎症所見を有する者の減少	42.7%（n=482）	45.3%（n=386）	40.0%（n=370）	25%	B-
14	40 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少	54.8%（n=42）	58.2%（n=390）	57.4%（n=469）	25%	C
15	40 歳で未処置歯を有する者の減少	41.2%（n=17）	41.0%（n=188）	30.9%（n=207）	10%	B-

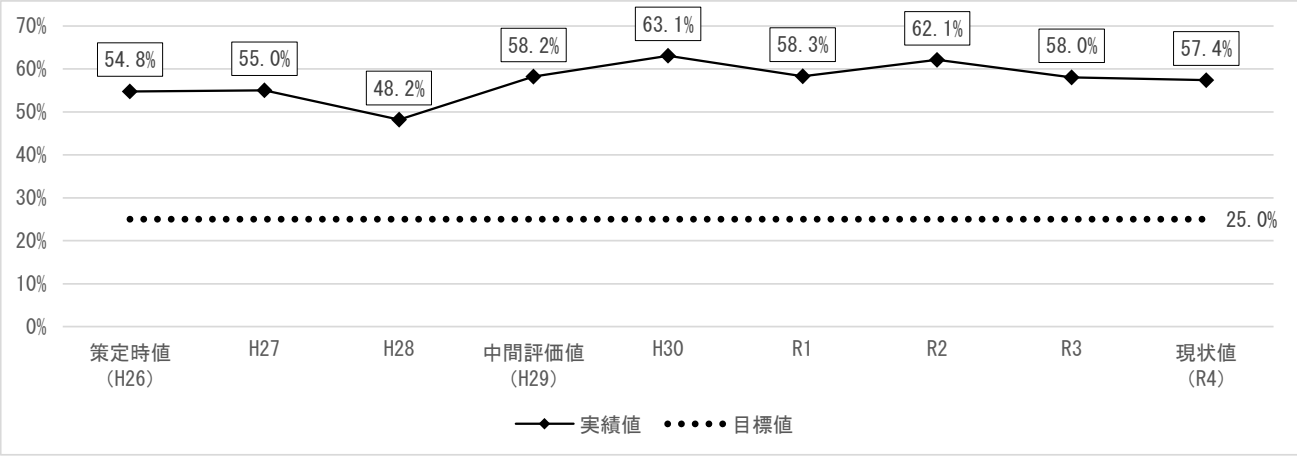
16	40 歳で喪失歯のない者の増加（35～44 歳で算出）	60.0% （n=140） 62.5%※1 （n=16）	67.7% （n=155）	78.8% （n=411）	75%	A
17	喫煙と歯周病の関係について知っている者の増加	30.6% （n=867）	41.1% （n=1,217）	45.8% （n=1,169）	50%	B+
18	50 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の増加（45～54 歳で算出）	30.8% （n=93）	53.2% （n=173）	65.4% （n=153）	55%	A

出典：成人歯科健康診査（項目番号 13）、枚方市歯周病検診（項目番号 14～16）、
枚方市民の生活習慣や歯と口の健康に関するアンケート（項目番号 17,18）
※1：40 歳のみで算出した値

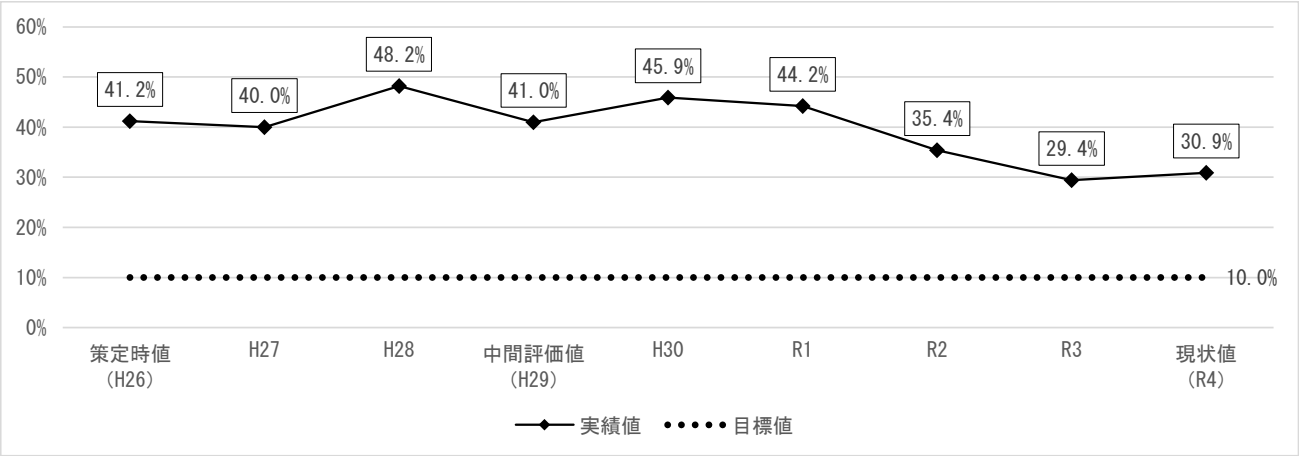
図表 33　（項目番号 13）20 歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合



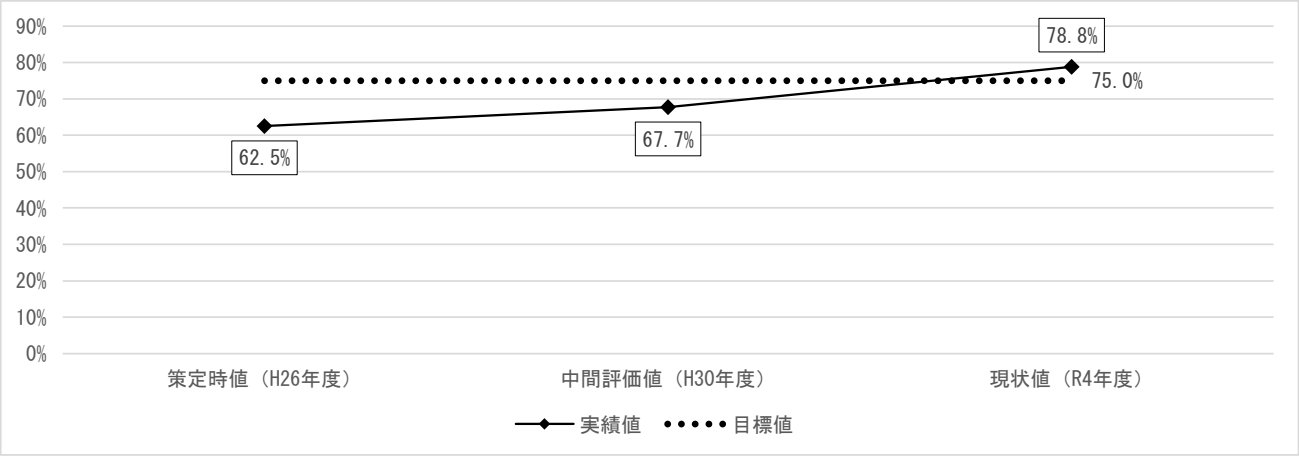
図表 34　（項目番号 14）40 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少



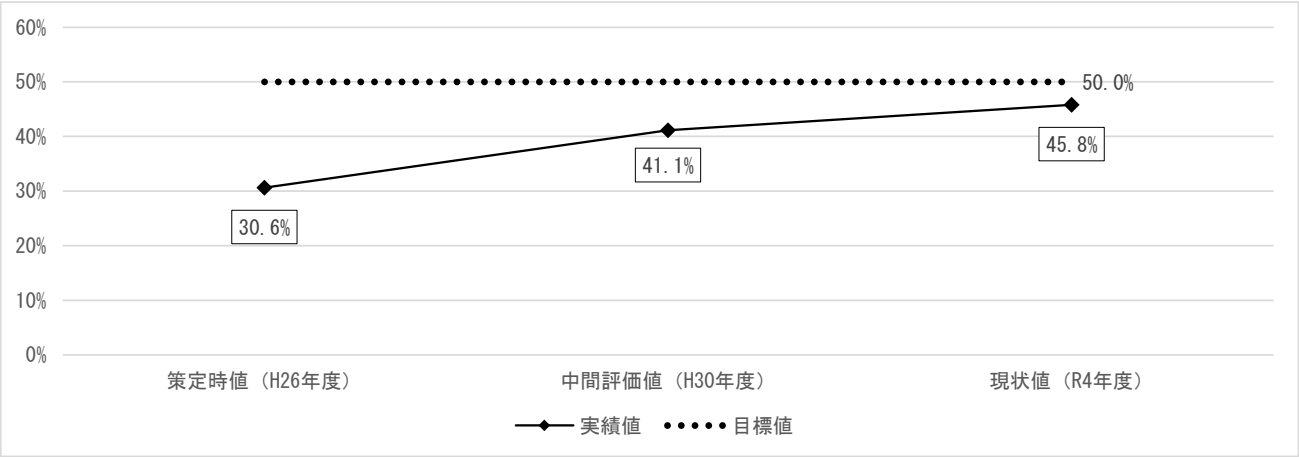
図表 35　（項目番号 15）40 歳で未処置歯を有する者の減少



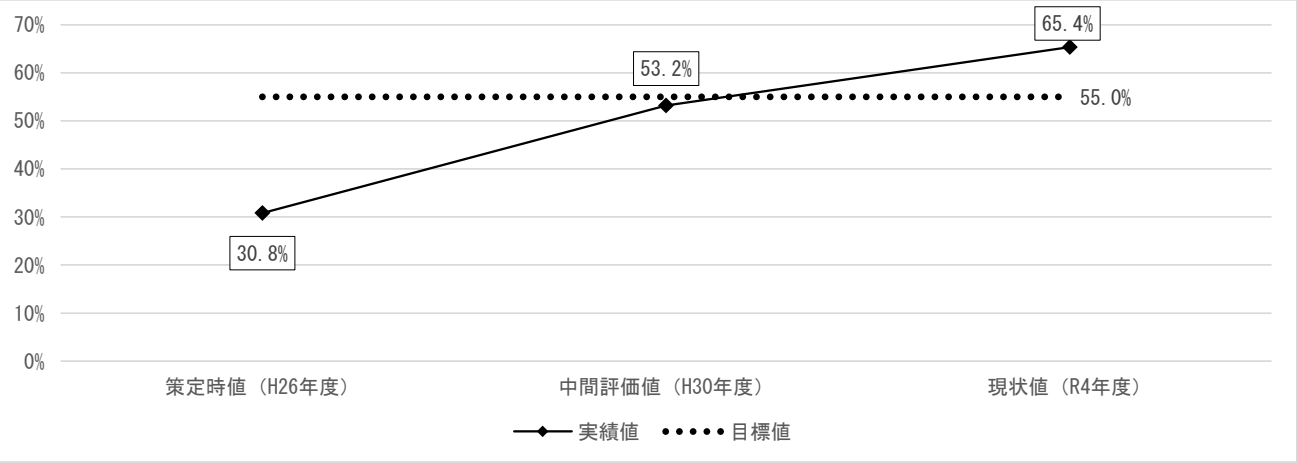
図表 36　（項目番号 16）40 歳で喪失歯のない者の割合



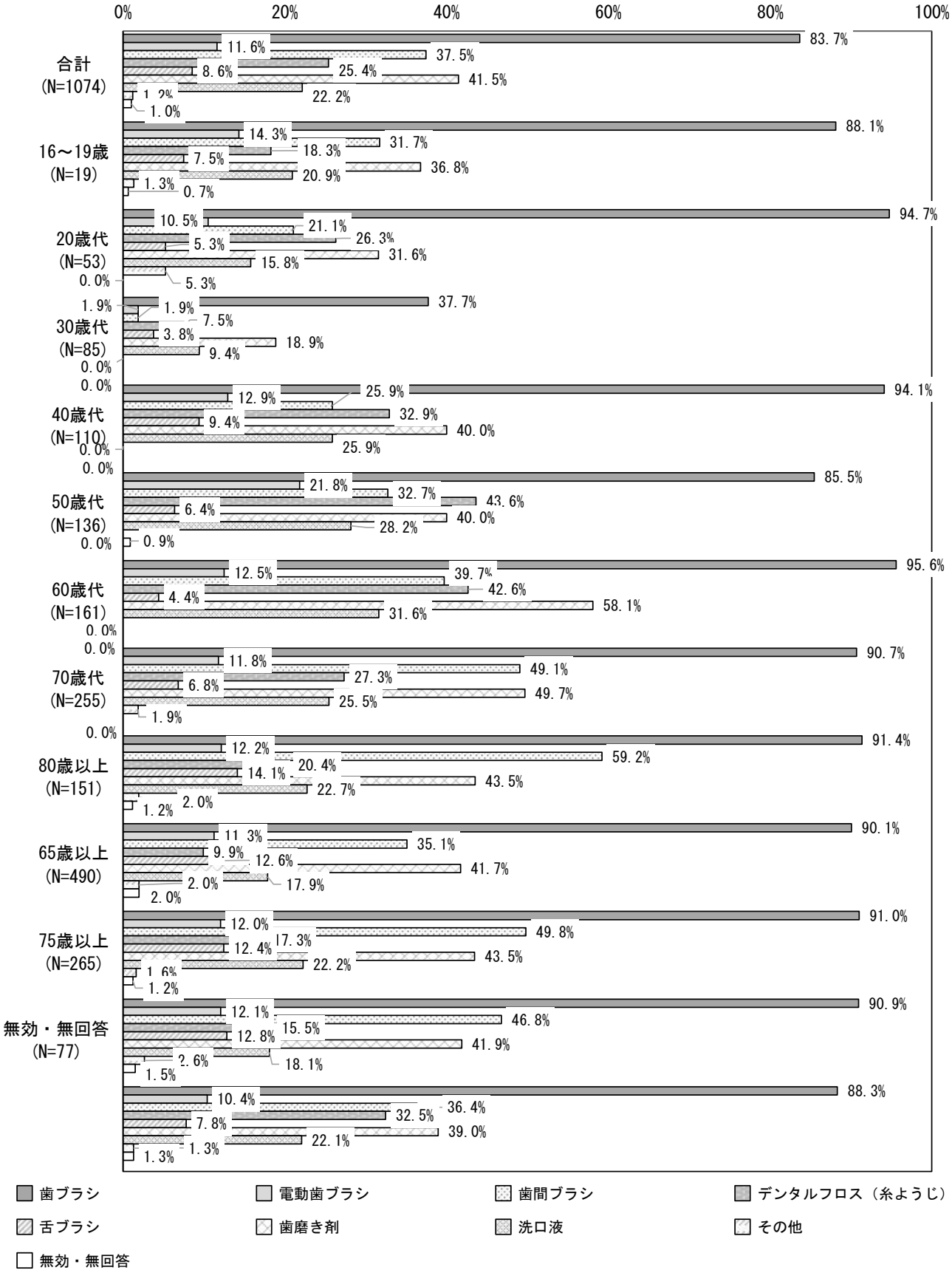
図表 37　（項目番号 17）喫煙と歯周病の関係について知っている者の割合



図表 38　（項目番号 18）50 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の割合



図表 39　口腔内の清掃手段（性別・年齢別）



(エ) 高齢期（60 歳～）の歯科口腔保健

高齢期の歯科口腔保健に関する目標としては、項目番号 19～24 の６つの目標項目を設定しています。うち達成状況の分類がある４項目については、２項目が A、１項目が B+、１項目が B-の結果となっています。達成状況の分類がない２項目については、１項目が策定時から改善している一方、残り１項目は変化なし（横ばい）の結果となりました。

「項目番号 19：60 歳で未処置歯を有する者の減少」は、現状値 20.0%となり、達成状況 B+の結果となりました。図表 40 に示すとおり、平成 27 年以降、概ね 20～30%代で推移しています。口腔機能の維持のためには、未処置歯を放置することなく、早期に治療を実施することが重要です。

「項目番号 20：60 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少」は、現状値 61.7%となり、達成状況 B-となりました。図表 41 に示すとおり、策定時値から 3.6%改善しているものの目標値とは依然隔たりがあるため、今後も対策に取り組んでいきます。

項目番号 21 と 22 は、残存歯に関する目標項目です。「項目番号 21：60 歳で 24 歯以上の自分の歯を有する者の増加」は、該当者の割合が策定時から増加することを目標としていましたが、現状値では策定時値から 8.7%増加する結果となりました。「項目番号 22：80 歳で 20 歯以上の自分の歯を有する者の増加」は、現状値 58.3%で、達成状況 A となり、ともに良好な結果となっています。

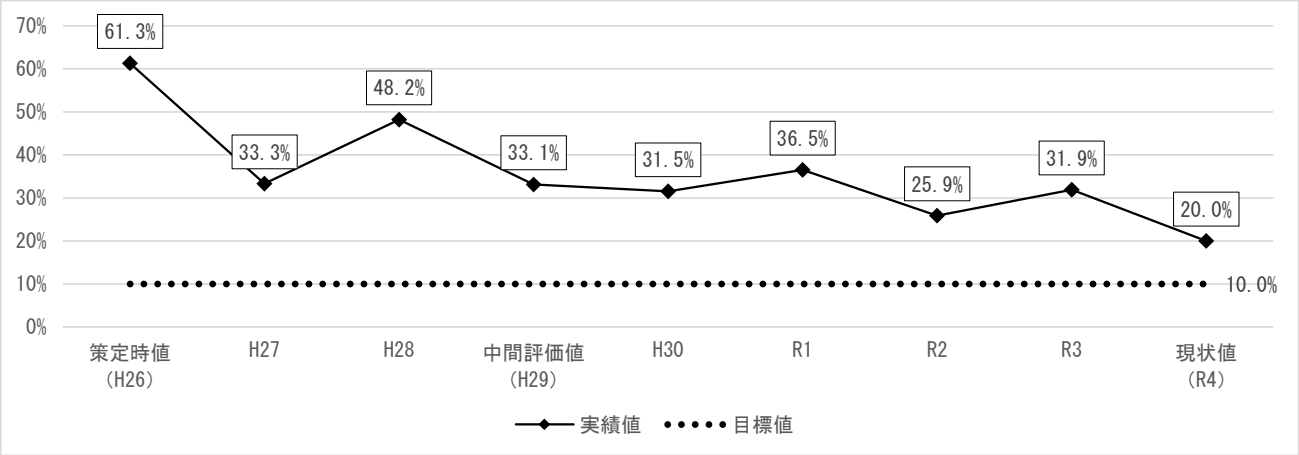
「項目番号 23：60 歳代における咀嚼良好者の増加」は、該当者の割合が策定時から増加することを目標としていましたが、現状値は策定時値とほぼ同値なりました。高齢期の食生活にも大きく影響する項目であるため、今後も継続的に状況を把握していく必要があります。

「項目番号 24：60 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の割合の増加」については、該当者の割合が現状値 62.7%となっており、達成状況 A の結果となりました。なお、中間評価に比べて、現状値は歯間部清掃用器具を使用する者の割合が 15%増加しており、適切なセルフケアを実施することに対する意識が高まっていることが伺えます。歯間部清掃用器具の使用は歯周炎対策としても重要な要素であるため、今後もさらなる普及啓発を進めていきます。

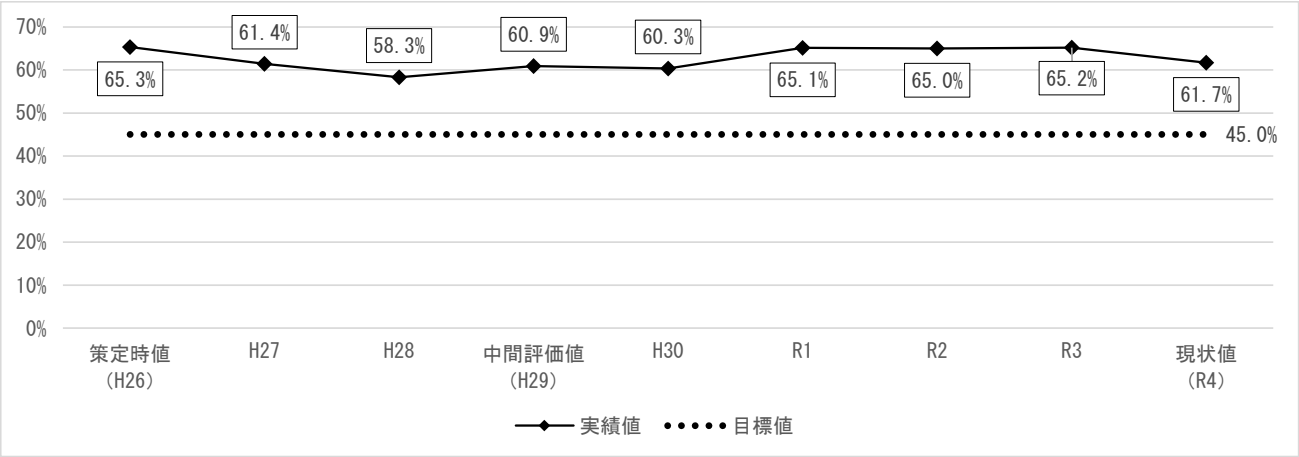
項目番号	目標項目	策定時値 (H26 年度)	中間評価値 (項目番号 19・20：29 年度 項目番号 21～24：30 年度)	現状値 (R4 年度)	目標値 (R5 年度)	達成状況 ※1
19	60 歳で未処置歯を有する者の減少	61.3% (n=31)	33.1% (n=139)	20.0% (n=275)	10%	B+
20	60 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少	65.3% (n=95)	60.9% (n=350)	61.7% (n=592)	45%	B-
21	60 歳で 24 歯以上の自分の歯を有する者の増加（55～64 歳で算出）	70.2% (n=159)	69.4% (n=193)	78.9% (n=152)	さらなる増加	増加
22	80 歳で 20 歯以上の自分の歯を有する者の増加（75～84 歳で算出）	45.4% (n=81)	47.6% (n=187)	58.3% (n=211)	50%	A
23	60 歳代における咀嚼良好者の増加	82.0% (n=205)	80.2% (n=227)	82.1% (n=173)	さらなる増加	横ばい
24	60 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の割合の増加（55～64 歳で算出）	50.0% (n=159)	47.7% (n=193)	62.7% (n=134)	60%	A

出典：枚方市歯周病検診（項目番号 19、20）、枚方市民の生活習慣や歯と口の健康に関するアンケート（項目番号 21～24）
※1：項目番号 21、23 は「策定時からの変化」

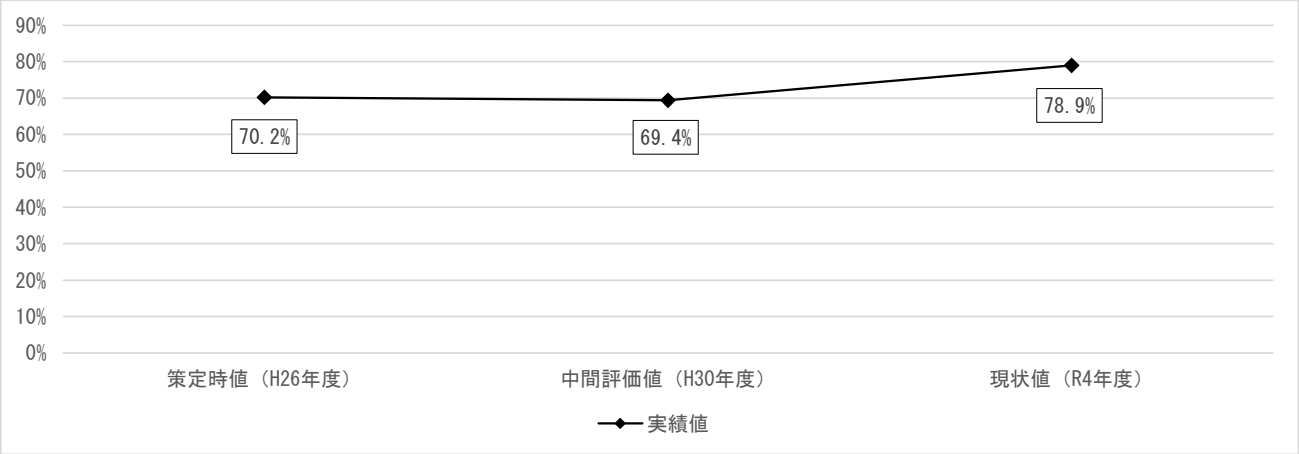
図表 40　（項目番号 19）60 歳で未処置歯を有する者の割合



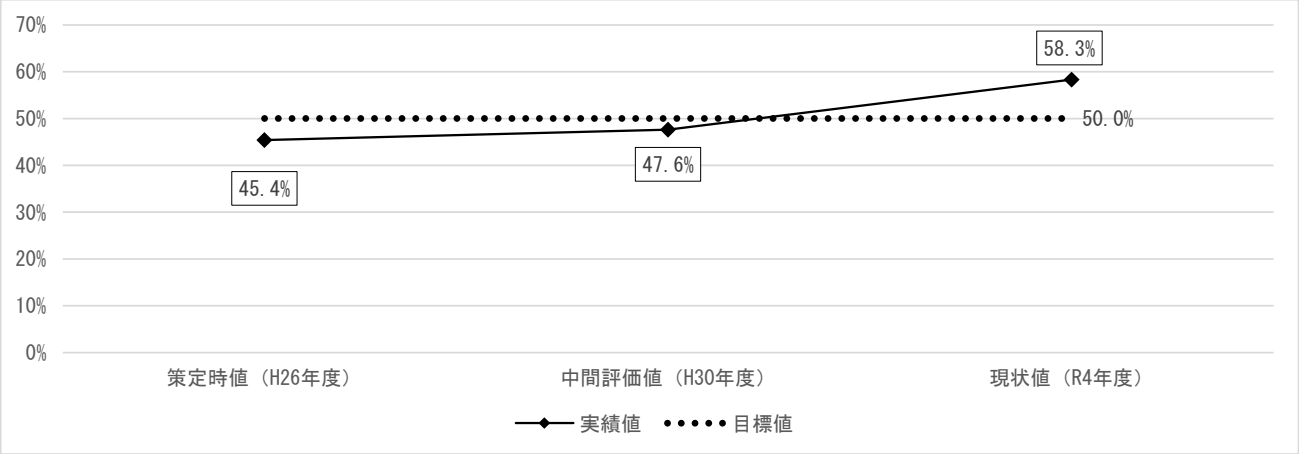
図表 41　（項目番号 20）60 歳代における進行した歯周炎を有する者の割合



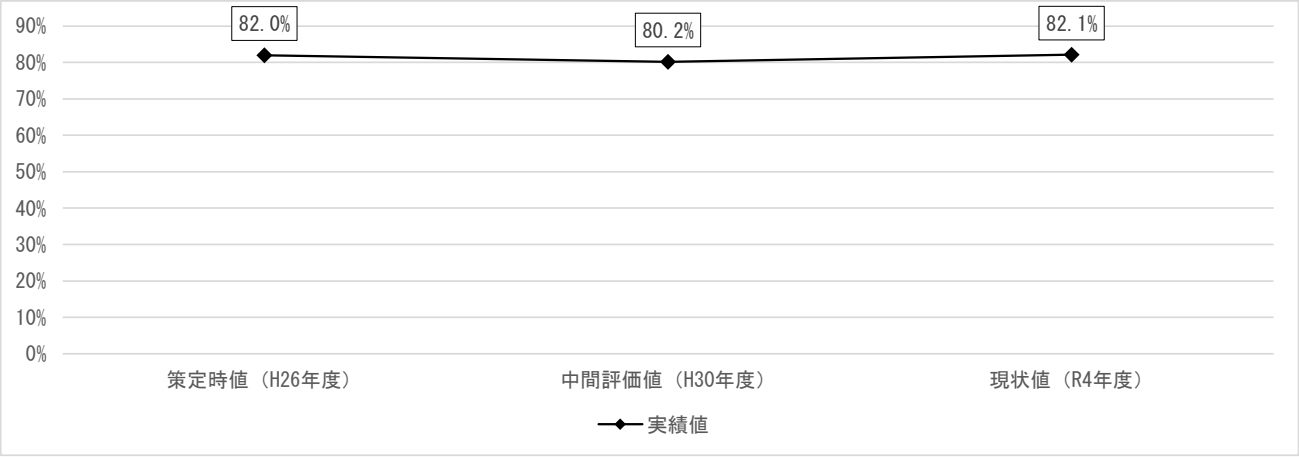
図表 42　（項目番号 21）60 歳で 24 歯以上の自分の歯を有する者の割合



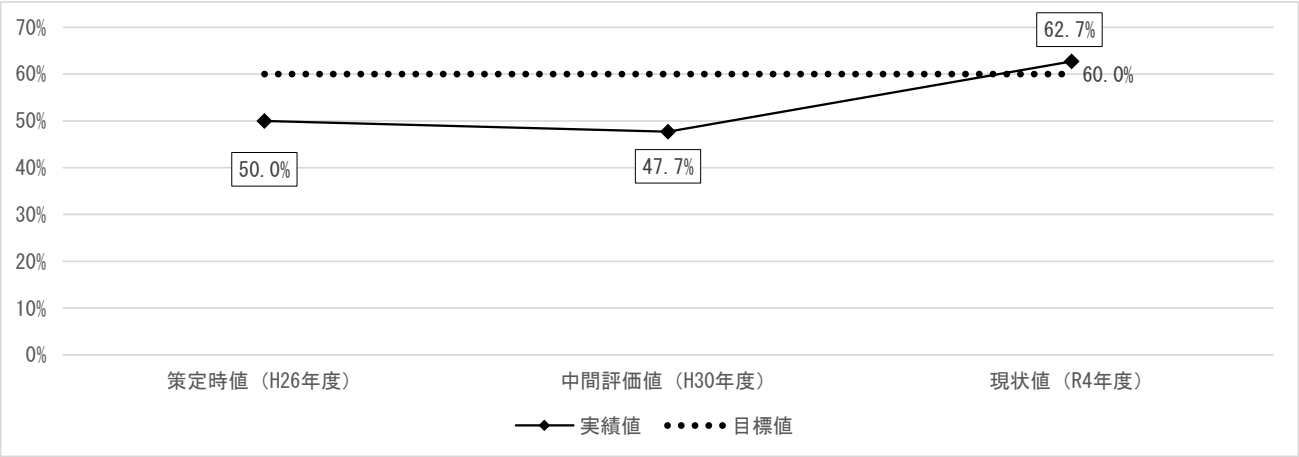
図表 43　（項目番号 22）80 歳で 20 歯以上の自分の歯を有する者の割合



図表 44　（項目番号 23）60 歳代における咀嚼良好者の割合



図表 45　（項目番号 24）60 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の割合



② 配慮を要する者の課題と取組

(ア) 妊産婦の歯科口腔保健

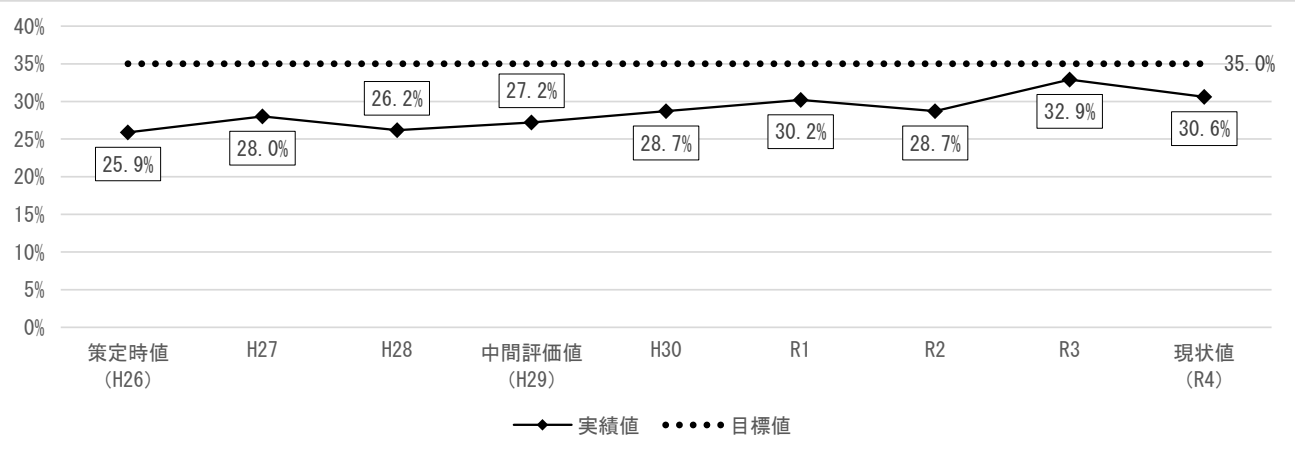
妊産婦の時期の口腔環境状態は、胎児や出生後の乳児にも影響を与えるため、妊産婦の時期に歯科健康診査を受診して、健康な口腔環境を維持することが重要です。このため、本計画では「項目番号 25：妊産婦歯科健康診査受診率の増加」を目標として定めました。

結果は、現状値 30.6%となり、達成状況 B+となりました。図表 46 に示すとおり、経年で見ると、受診率は緩やかに上昇しており、目標値 35%にも近づいています。今後もさらなる受診率の向上に努めていきます。

項目番号	目標項目	策定時値(H26 年度)	中間評価値(H29 年度)	現状値(R4 年度)	目標値(R5 年度)	達成状況
25	妊産婦歯科健康診査受診率の増加	25.9%（n=3,163）	27.2%（n=2,878）	30.6%（n=2,624）	35%	B+

出典：枚方市妊産婦歯科健康診査

図表 46 （項目番号 25）妊産婦歯科健康診査受診率



(イ) 障害者（児）の歯科口腔保健

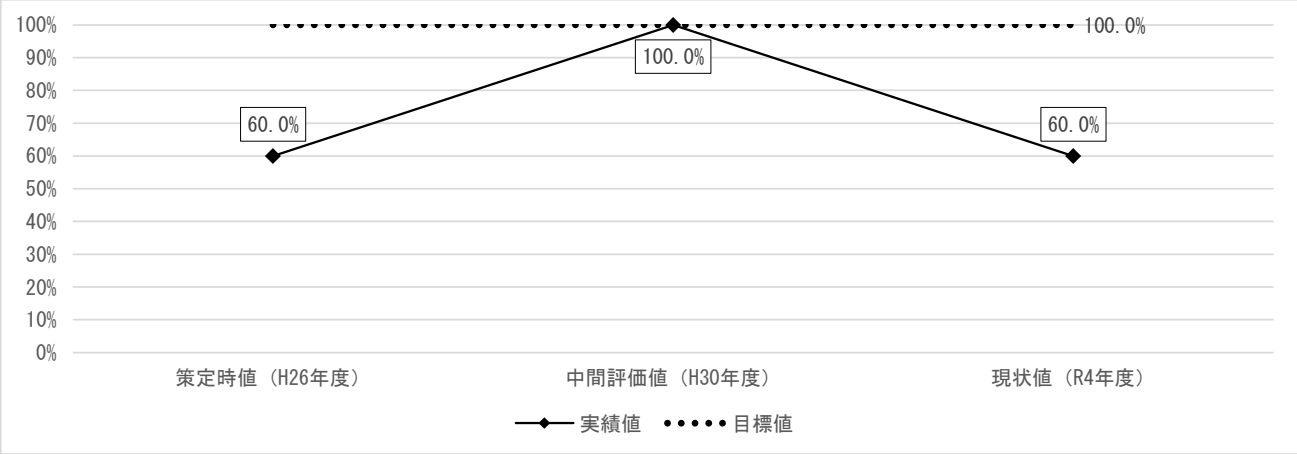
障害者（児）の歯科口腔保健として、「項目番号 26：障害者（児）入所施設での定期的な歯科健康診査実施率の増加」を目標項目として設定しました。本市内の障害者（児）入所施設は、計５施設あり、現状値では３施設、60.0%が定期的な歯科健康診査を実施していることとなり、達成状況 C となりました。中間評価時点では全施設で実施されていたことから、現在２施設が中止していることとなります。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、定期的な歯科健康診査が実施できなかった可能性も考えられます。

今後、全施設において歯科健康診査の実施が可能となるよう、障害者（児）施設歯科健康診査の利用勧奨などに努めていきます。

項目番号	目標項目	策定時値(H26 年度)	中間評価値(H30 年度)	現状値(R4 年度)	目標値(R5 年度)	達成状況
26	障害者（児）入所施設での定期的な歯科健康診査実施率の増加	60.0%（n=5）	100%（n=5）	60.0%（n=5）	100%	C

出典：枚方市　障害者（児）施設における歯と口腔の健康に関するアンケート

図表 47　（項目番号 26）障害者（児）入所施設での定期的な歯科健康診査実施率



(ウ) 要介護者の歯科口腔保健

障害者（児）の歯科口腔保健同様、要介護者の歯科口腔保健においても、「項目番号 27：介護老人福祉施設・介護老人保健施設での定期的な歯科健康診査実施率の増加」を目標に設定しました。現状値では、60.0%の施設が定期的な歯科健康診査を実施しており、目標値 50.0%を超え、達成状況 A の結果となりました。

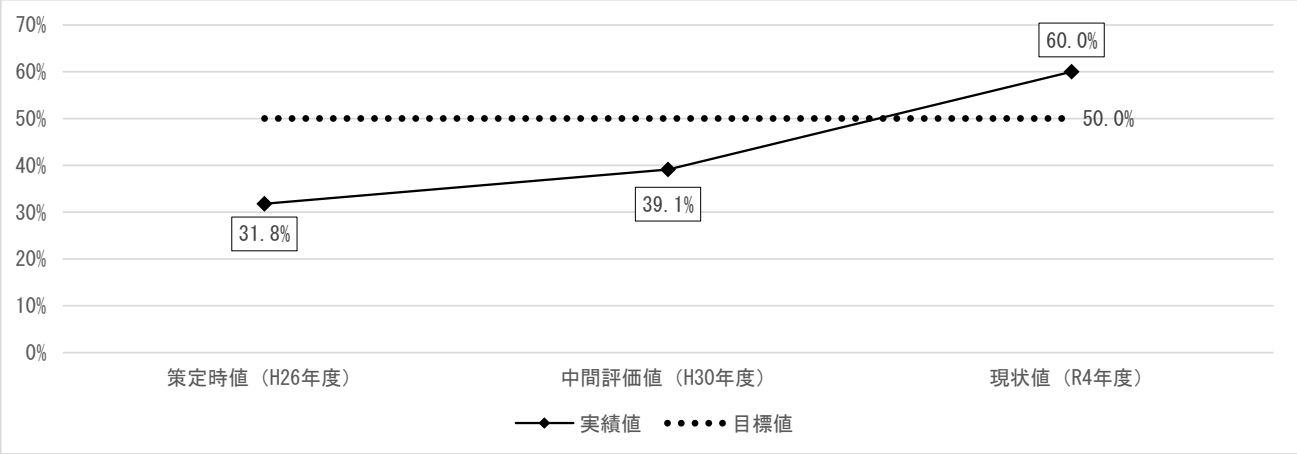
図表 48 に示すとおり経年で見ると、策定時、中間評価時、最終評価時の順に定期的な歯科口腔健康診査実施率が高まっていることが伺えます。

今後も引き続き関係機関との連携を深め、各施設での歯科健康診査の実施に努めていきます。

項目番号	目標項目	策定時値(H26 年度)	中間評価値(H30 年度)	現状値(R4 年度)	目標値(R5 年度)	達成状況
27	介護老人福祉施設・介護老人保健施設での定期的な歯科健康診査実施率の増加	31.8%（n=22）	39.1%（n=23）	60.0%（n=20）	50%	A

出典：枚方市　介護老人福祉施設及び介護老人保健施設における歯と口腔の健康に関するアンケート

図表 48　（項目番号 27）介護老人福祉施設・介護老人保健施設での定期的な歯科健康診査実施率



（エ）有病者の歯科口腔保健

口腔内の衛生状態を改善することは、誤嚥性肺炎の予防、糖尿病の重症化防止や心疾患の発症因子の軽減に資することが報告されているなど、有病者の歯科口腔環境を適切に維持することが昨今、重要視されています。

本計画では、代表的な糖尿病と歯周病の関係について、知っている者の割合を目標と定めました。現状値では、知っている者の割合が 43.4%となり、達成状況 B+の結果となりました。

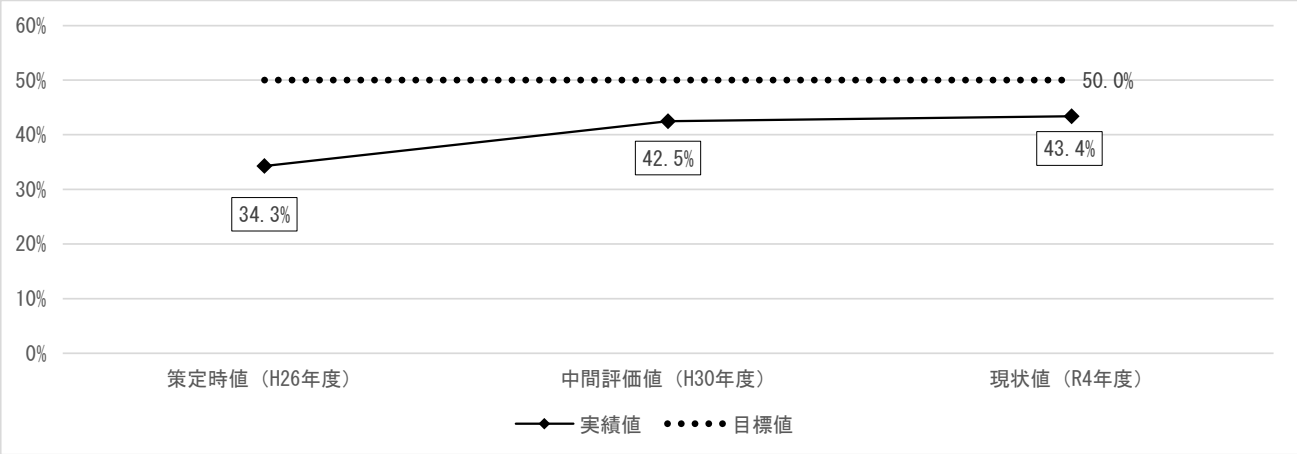
図表 49 に示すとおり、経年で見ると、策定時、中間評価時、最終評価時の順に割合が高まっており、糖尿病と歯周病の関係が市民に浸透してきていると考えられます。

今後も、有病者の歯科口腔保健対策をさらに図るため、さらなる普及啓発を進めていきます。

項目番号	目標項目	策定時値（H26 年度）	中間評価値（H30 年度）	現状値（R4 年度）	目標値（R5 年度）	達成状況
28	糖尿病と歯周病の関係について知っている者の割合の増加	34.3%（n=867）	42.5%（n=1,217）	43.4%（n=1,169）	50%	B+

出典：枚方市民の生活習慣や歯と口の健康に関するアンケート

図表 49　（項目番号 28）糖尿病と歯周病の関係について知っている者の割合



第３章　最終評価からみえてきた課題と今後の取組の方向性

１．計画期間における社会環境の動向

（１）　社会の動向

健康づくりの重要な要因である歯と口に関する施策を推進するため、平成 28 年に「枚方市歯科口腔保健計画」を策定し、「口腔保健支援センター」を核として、さまざまな関係機関と連携を図り、歯科口腔保健に関する取組みを実施するとともに、平成 31 年３月に中間評価を行い、最終年度に向けて優先的な課題をかかげ、歯科口腔保健の施策の取り組みを推進してきました。

本計画期間中の令和元年 12 月に中国湖北省武漢市において、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染者が初めて確認されて以降、全世界に感染が広がり日本でも新型コロナウイルス感染症の感染が拡大しました。

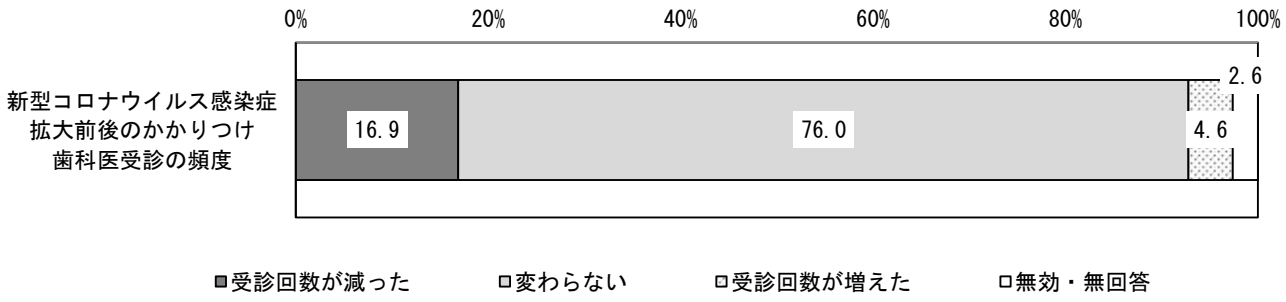
新型コロナウイルス感染症の流行は、歯科口腔保健の分野においても影響を与えました。第１回目の緊急事態宣言中は、厚生労働省保険課からの高齢者健康診査等の中止の通知を受けて各種健診が中止されたことや、国民が感染のリスクを恐れ、医療機関への受診を控え、病状が悪化することなどが報告されました。また、日本歯科医師会の調査によると、新型コロナウイルス感染症の流行前と比べて、在宅歯科医療の実施件数が減少したと回答した歯科医院が約半数を占めるなど、歯科医院に通院困難な患者の歯科口腔環境の状態の悪化も懸念されました。

さらに、学校での歯科健診において、「要受診」とされた児童・生徒が、その後に歯科医療機関を受診しない「未受診率」が近年上昇しており、その理由の一つに、コロナによる受診控えがあると報告されました。

本市においても、コロナ禍での歯科医療機関への受診を促すために、SNS などを用いた積極的な啓発や、緊急事態宣言などで検診（健診）の機会を逃がした対象者に対して、特例受診券を発行して受診機会を確保するなど、市民の口腔保健活動の向上に努めました。

なお、本市が令和４年 12 月に実施した「枚方市民の生活習慣や歯と口の健康に関するアンケート」では、新型コロナウイルス感染症流行前後で、約 17%の者が「かかりつけ歯科医」への受診回数が減ったと回答しました。KDB（国保データベース）システムからの枚方市民の歯科医療機関への受診率の推移や、社会保険支払基金のレセプト件数の推移では、新型コロナウイルス感染症の感染者数の増加時期や、緊急事態宣言の時期に合わせて、歯科医療機関への受診控えの傾向が認められましたが、令和４年は緊急事態宣言の発出前と比べても受診率や月レセプト件数は高くなり、歯科医療機関への受診状況は回復してきていると推測されます。

図表 50　新型コロナウイルス感染症流行前後の「かかりつけ歯科医」への受診の頻度



出典：枚方市民の生活習慣や歯と口の健康に関するアンケート

（２）　国の動向

歯科口腔の健康の保持・増進が、健康で質の高い生活を営む上で基礎的かつ重要な役割を果たしていること等を背景に、平成 23 年に「歯科口腔保健の推進に関する法律」が公布・施行されました。この法律に基づき、平成 24 年に「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」（以下「基本的事項」という。）が策定されました。

この基本的事項では、高齢化が進む中で将来を見据え、乳幼児期からの生涯を通じた歯科疾患の予防、口腔機能の獲得・保持等により、全ての国民が心身ともに健やかで心豊かな生活ができる社会を実現することを目的に、５つの歯科口腔保健の推進に関する基本的な方針に加え、合計 19 項目の具体的目標等が策定されています。

令和４年 10 月に基本的事項の最終評価がとりまとめられました。全 19 項目の達成状況を評価・分析した結果は、Ａ評価（目標値に達した）は２項目（10.5%）、Ｂ評価（現時点で目標値に達していないが、改善傾向にある）は６項目（31.6%）、Ｃ評価（変わらない）は１項目（5.3%）、Ｄ評価（悪化している）は１項目（5.3%）、Ｅ評価（評価困難※）は９項目（47.4%）という結果となっています。

う蝕に関連する項目や若年層の歯周病に関する項目では改善傾向が認められ、また定期的に歯科健診（検診）を受診する者が増加していることなどから、歯科口腔保健の取組は大きく進み、国民の歯及び口腔の健康への関心が高まったことにより、総じて歯・口腔の状態は向上していますが、成人期と高齢期の歯周病の罹患状況が改善していない結果となりました。

次期の基本的事項では、口腔の健康格差のさらなる縮小を目指すとともに、健康寿命の延伸や健康格差の縮小につながるよう、国民の口腔の健康の保持・増進にさらに取り組んでいくとされています。

※）新型コロナウイルス感染症の影響でデータソースとなる調査が中止となり評価困難

２．本計画の総合評価

（１）　「歯科口腔保健推進の方向性を踏まえた目標」に対する評価

図表 51 に「歯科口腔保健推進の方向性を踏まえた目標」内の項目として設定された目標項目の結果を達成状況別で整理しています。

「歯科口腔保健推進の方向性を踏まえた目標」全体では、改善傾向にある目標項目（A～B-に該当する目標項目）が 83.3%となりました。

図表 51　「歯科口腔保健推進の方向性を踏まえた目標」の目標項目結果一覧

達成状況（12 項目）					合計
A	B+	B-	C	D	
2(16.7%)	1(8.3%)	7(58.3%)	2(16.7%)	―	12(100%)

（２）　「重点的歯科口腔保健対策／ライフステージ別の課題と取組」に対する評価

図表 52 に「重点的歯科口腔保健対策／ライフステージ別の課題と取組」内の項目として設定された目標項目の結果をライフステージ別、達成状況及び策定時からの変化別で整理しています。

「重点的歯科口腔保健対策／ライフステージ別の課題と取組」に関する結果について、達成状況の分類がある目標項目では、改善傾向にある項目（A～B-に該当する目標項目）が 70.6%となりました。他方、達成状況 C の目標項目が２項目（11.8%）、達成状況 D の目標項目が３項目（17.6%）あり、それぞれ乳幼児期で１項目、学齢期で３項目、成人期で１項目該当する結果となりました。

達成状況の分類がない目標項目では、改善傾向にある項目が５項目中２項目（40.0%）となった一方、策定時からの変化が認められず、横ばいとなった目標項目が３項目（60.0%）ありました。

図表 52　「重点的歯科口腔保健対策／ライフステージ別の課題と取組」の目標項目結果一覧

項目	達成状況（17 項目）					合計
	A	B+	B-	C	D	
乳幼児期（0～6歳）	1(50.0%)	―	―	―	1(50.0%)	2(100%)
学齢期（7～18 歳）	2(40.0%)	―	―	1(20.0%)	2(40.0%)	5(100%)
成人期（19～59 歳）	2(33.3%)	1(16.7%)	2(33.3%)	1(16.7%)	―	6(100%)
高齢期（60 歳～）	2(50.0%)	1(25.0%)	1(25.0%)	―	―	4(100%)
合計（全体）	7(41.2%)	2(11.8%)	3(17.6%)	2(11.8%)	3(17.6%)	17(100%)

項目	策定時からの変化：達成状況の分類がない項目（5 項目）
学齢期 （7～18 歳）	• 項目番号 11　CO・GO と診断されたものに対して個別指導を実施している小学校・中学校・高等学校の増加 【小学校】増加　【中学校】横ばい　【高等学校】横ばい
高齢期 （60 歳～）	• 項目番号 21　60 歳で 24 歯以上の自分の歯を有する者の増加：増加 • 項目番号 23　60 歳代における咀嚼良好者の増加：横ばい

（3）　「重点的歯科口腔保健対策／配慮を要する者の課題と取組」に対する評価

図表 53 に「重点的歯科口腔保健対策／配慮を要する者の課題と取組」内の項目として設定された目標項目の結果を、配慮を有する者別、達成状況からの変化別で整理しています。「重点的歯科口腔保健対策／配慮を要する者の課題と取組」全体でみると、改善傾向にある目標項目（A～B-及び改善に該当する目標項目）が 75.0%となりました。

図表 53　「重点的歯科口腔保健対策／配慮を要する者の課題と取組」の目標項目結果一覧

項目	達成状況（4 項目）					合計
	A	B+	B-	C	D	
妊産婦	—	1(100%)	—	—	—	1(100%)
障害者（児）	—	—	—	1(100%)	—	1(100%)
要介護者	1(100%)	—	—	—	—	1(100%)
有病者	—	1(100%)	—	—	—	1(100%)
合計（全体）	1(25.0%)	2(50.0%)	—	1(25.0%)	—	4(100%)

（4）　「状況に応じた歯科口腔保健医療」に関する評価

①　休日急病歯科医療

地域の歯科医院が休診の際に歯科急病患者に対応するため、日曜日、祝日及び年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）に休日急病歯科診療を実施しています例年 600～700 人程度、1 日あたり平均 8～9 人の受診者数があり、休日においても歯科医療に対する需要は高い状況です。今後も歯科急病患者への対応のために、休日急病歯科医療を継続して実施できるよう歯科医師会等と連携します。

②　災害時の歯科口腔保健医療

災害時は、歯科医療機関の機能不全に加えて、水不足もあり十分な口腔清掃が出来ないことから、口腔内の不衛生等によるう蝕や歯周病の発症及び悪化、高齢者の誤嚥性肺炎の発症等が報告されています。

誤嚥性肺炎を予防することは災害関連死の防止に繋がるため、今後、災害時における口腔ケアの方法や災害時の歯科口腔保健に関わる備え等の重要性について歯科医師会等と連携して普及啓発を図ります。

災害医療連携訓練において、歯科医師会は医師会、薬剤師会等と協力し拠点応急救護所の設置及び運営訓練に参加すると共に、問題点及び課題の情報共有を図りました。今後は、災害時に各災害医療関係機関が組織だった医療救護活動を迅速かつ的確に行なうための「枚方市災害時医療救護活動マニュアル」に基づき、歯科医療救護活動が円滑に実施出来るよう、体制の維持に努めます。また、歯科医師会は、災害時に身元確認作業ができるよう体制の維持に努めます。

（５）　「歯科口腔保健推進体制」に関する評価

枚方市、枚方市歯科医師会、枚方市医師会、枚方市薬剤師会及び大阪歯科大学等の関係機関・団体は、それぞれの専門的立場から地域や学校等での歯科口腔保健施策が効果的に実施できるよう、お互いに連携し取組の推進に努めます。

①　口腔保健支援センター

平成 28 年４月に保健センター内に「口腔保健支援センター」を設置しました。歯科医師、歯科衛生士を配置し、歯科口腔保健に関連する機関や団体との連絡調整を図り、各関係機関の取組を支援するとともに、すべてのライフステージにわたる歯科口腔保健施策を総合的に推進する体制を整えました。

口腔保健支援センターでは、地域の保健、医療、社会福祉、教育、その他の関係者により構成される枚方市歯科口腔保健推進連絡会を設置し、「乳幼児・学齢期」及び「成人期・高齢期・配慮を要する者」のグループに分け、それぞれの時期における課題を話し合い、情報共有等を行いました。また、医科歯科連携や働く世代についての歯科口腔保健調査研究を通して、現状の把握や課題を整理し情報発信を図りました。今後も、各関係機関と連携し、歯科口腔保健を効果的に推進していきます。

②　関係機関・団体

枚方市歯科医師会は、障害者（児）等、配慮を要する者の歯科口腔保健施策の推進については、歯科保健医療サービスを受けることが困難な者の口腔の健康の保持増進を目的に、障害者（児）施設歯科健康診査を枚方市とともに進めてきました。また、有病者の歯科口腔保健施策の推進については、特に糖尿病患者に対し、口腔と全身疾患の関連についての情報の普及啓発を行いました。今後も、障害者や有病者等の配慮を要する者が適切な口腔機能管理が受けられるよう体制整備を図ります。

枚方市医師会は、口腔内の環境改善が健康寿命の延伸や全身的な健康状態の向上にも有効であることから、口腔と全身疾患の関連についての情報の普及啓発を支援しました。今後、経過や重症度に関わらず、有病者の口腔衛生管理・口腔機能管理が切れ目なく実施されるよう、医科歯科連携の推進を図ります。

枚方市薬剤師会は、医師会、歯科医師会と連携をとり、歯と口腔に影響を及ぼす薬剤の正しい知識の情報提供及び服薬指導を実施してきました。今後は、特に糖尿病患者への服薬指導の際に、糖尿病と歯周病についての情報提供を行っていきます。

大阪歯科大学は、教育・研究機関の立場から効果的に「枚方市歯科口腔保健計画」の推進を図るため

に、市とともにアンケート分析を行う等共同研究を実施してきました。今後も、技術的支援や専門的知識の助言等を行うことを通して歯科口腔保健の推進を図ります。

③　人材の育成

歯科保健医療サービスを受けることが困難な者の口腔の健康の保持増進を図るために、歯科医師等を対象とした研修会の開催や、専門性の高い知識や技術を有する歯科医師、歯科衛生士の育成を実施し、歯科専門職の資質の向上を図りました。

また、歯科専門職だけでなく、保健師・助産師・看護師・管理栄養士・保育士・介護支援専門職等の歯科口腔保健に携わる職種に、今後も歯と口の健康づくりに関する知識の普及啓発を行います。

（6）　全体評価

前述のとおり、各目標の達成状況等を踏まえると、全体としては改善傾向にあり、適切な日ごろのセルフケアを実施している者の増加（歯磨き剤や歯間部清掃用器具を使用する者が増加等）や、定期的な歯科医院等で歯科健康診査や指導を受けた者が増加するなど、健康な口腔環境を維持することへの意識の高まりが伺えます。

他方で、課題として残る部分もあり、特に、未成年者では、学齢期におけるう蝕を有する者の割合が高いこと、壮年期では、進行した歯周炎を有する者の割合が高く、歯周病が歯を失う主な原因であることから、これらを優先課題と位置付け、今後の対策に取り組みます。

優　先　課　題

- 学齢期におけるう蝕を有する者の割合を減少させる（項目番号９）
- 壮年期における進行した歯周炎を有する者の割合を減少させる（項目番号 14、20）

３．今後の取組の方向性

前述のとおり、学齢期におけるう蝕を有する者の割合を減少させること、壮年期における進行した歯周炎を有する者の割合を減少させることを優先課題と位置付け、優先的に取り組んでいく必要があります。

なお、これらについても、日常生活で市民が取り組むセルフケア及び定期的なメンテナンスの結果として、表れてくるものであり、本市としては、引き続き、それらの普及啓発、それらが定着する取組を推進していきます。特に歯周炎を有する者の割合に関して、症状を悪化させないためには、検診を受け、早期に発見、早期に治療を開始することが重要ですが、本市が実施する歯周病検診の受診率は医科の検診に比べると、依然受診率が低いことから、今後も引き続き、受診率の向上に努めます。

また、歯科健診などを受診する際に配慮を要する者についても、本計画に定める目標項目としては一定の成果が得られたものの、より多面的に支援を行っていく必要があると考えるため、さらなる支援の推進を図ります。